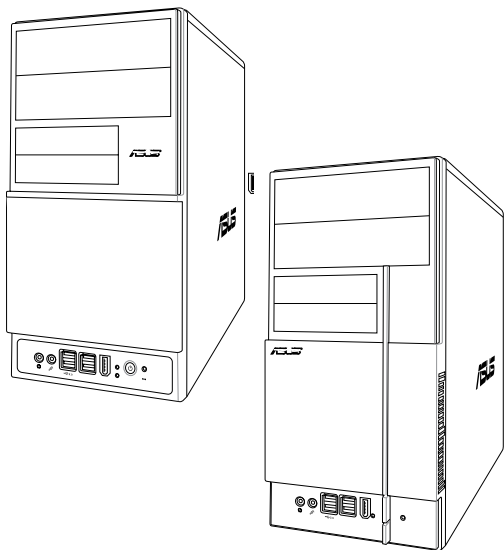




V-Series M2A690G

ASUS PC (デスクトップ ベアボーン)

セットアップマニュアル



J3061

初版第 1 冊
2007年 8月

Copyright © 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS) の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合には、保証やサービスを受けることができません。

- (1) ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容に変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上のご注意	vii
このマニュアルについて	viii
パッケージの内容	x

Chapter 1: システムの概要

1.1	ようこそ	1-2
1.2	フロントパネル	1-2
1.3	リアパネル	1-4
1.4	内部コンポーネント	1-7

Chapter 2: 基本取り付け

2.1	準備	2-2
2.2	始める前に	2-2
2.3	サイドカバーとフロントパネルを取り外す	2-3
2.4	CPU	2-4
2.4.1	CPUを取り付ける	2-4
2.4.2	ヒートシンクとファンを取り付ける	2-6
2.5	メモリを取り付ける	2-8
2.5.1	メモリ構成	2-8
2.5.2	メモリを取り付ける	2-11
2.5.3	メモリを取り外す	2-11
2.6	拡張スロット	2-12
2.6.1	拡張カードを取り付ける	2-12
2.6.2	拡張カードを設定する	2-12
2.6.3	PCI Express x1 スロット	2-14
2.6.4	PCI スロット	2-14
2.6.5	PCI Express x16 スロット	2-14
2.7	光学ドライブを取り付ける	2-15
2.8	ハードディスクドライブを取り付ける	2-16
2.9	カードリーダーを取り付ける	2-18
2.10	フロッピーディスクドライブを取り付ける	2-20
2.11	ケーブルを接続する	2-21
2.12	カバーを取り付ける	2-22

もくじ

Chapter 3: 起動

3.1	OSをインストールする	3-2
3.2	電源をオンにする	3-2
3.3	サポートCD 情報	3-2
3.3.1	サポートCDを実行する	3-3
3.3.2	ドライバメニュー	3-4
3.3.3	ユーティリティメニュー	3-5
3.3.4	Make Disk メニュー	3-5
3.3.5	マニュアルメニュー	3-5
3.3.6	コンタクトインフォメーション	3-5
3.4	ソフトウェア情報	3-6

Chapter 4: マザーボード情報

4.1	マザーボードの概要	4-2
4.2	マザーボードのレイアウト	4-2
4.3	ジャンパ	4-3
4.4	コネクタ	4-5

Chapter 5: BIOS セットアップ

5.1	BIOS 管理更新	5-2
5.1.1	ブートフロッピーディスクを作成する	5-2
5.1.2	ASUS EZ Flash 2	5-3
5.1.3	AwardBIOS Flash	5-4
5.1.4	ASUS CrashFree BIOS 3	5-6
5.1.5	ASUS Update	5-8
5.2	BIOS 設定プログラム	5-11
5.2.1	BIOS メニュー画面	5-11
5.2.2	メニューバー	5-11
5.2.3	ナビゲーションキー	5-12
5.2.4	メニュー	5-12
5.2.5	サブメニュー	5-12
5.2.6	構成フィールド	5-12
5.2.7	ポップアップウィンドウ	5-13
5.2.8	ヘルプ	5-13

もくじ

5.3	メインメニュー	5-14
5.3.1	System Time	5-14
5.3.2	System Date	5-14
5.3.3	Legacy Diskette A	5-14
5.3.4	Primary IDE Master/Slave	5-15
5.3.5	SATA 1-4	5-17
5.3.6	HDD SMART Monitoring	5-18
5.3.7	Installed Memory	5-18
5.3.8	Usable Memory	5-18
5.4	拡張メニュー	5-18
5.4.1	JumperFree Configuration	5-19
5.4.2	CPU 設定	5-20
5.4.3	チップセット	5-21
5.4.4	PCInPn	5-22
5.4.5	オンボードデバイス設定構成	5-23
5.4.6	USB 設定	5-25
5.5	電源メニュー	5-26
5.5.1	ACPI Suspend Type	5-26
5.5.2	ACPI APIC Support	5-26
5.5.3	APM の設定	5-26
5.5.4	ハードウェアモニタ	5-28
5.6	起動メニュー	5-30
5.6.1	ブートデバイスの優先順位	5-30
5.6.2	Removable Drives	5-30
5.6.3	Hard Disk Drives	5-31
5.6.4	起動設定	5-31
5.6.5	セキュリティ	5-33
5.7	ツールメニュー	5-34
5.7.1	ASUS Music Alarm	5-34
5.7.2	ASUS O.C. Profile	5-36
5.7.3	ASUS EZ Flash 2	5-38
5.8	終了メニュー	5-31

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



WARNING! The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。何らかの損傷が見つかった場合は、販売代理店にご連絡ください。
- マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。本製品は安定した場所に設置してください。
- 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

リチウムイオンバッテリー

CAUTION: Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions.

VORSICHT: Explosionsgefahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers.

レーザー製品

クラス 1 レーザー製品

このマニュアルについて

対象読者

本書は、本製品に関する情報全般と取り付け方法を説明しています。なお、本書は上級ユーザーを対象にしています。

マニュアルの概要

1. Chapter 1: システムの概要

本製品の概要。フロントパネルとリアパネル、および内部コンポーネントなどの、システムの各機能を紹介。

2. Chapter 2: 基本取り付け

システムのコンポーネントの取り付ける方法について。

3. Chapter 3: 起動

システムの電源をオンにする方法、CDからドライバやユーティリティをインストールする方法について。

4. Chapter 4: マザーボード情報

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明。

5. Chapter 5: BIOS セットアップ

BIOSセットアップメニューでのシステム設定、変更方法、BIOSパラメータの説明。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告: 本製品を取り扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取り扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取り扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取り扱う上でのヒントと追加情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)

各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

パッケージの内容

以下のものが揃っていることを確認してください。



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

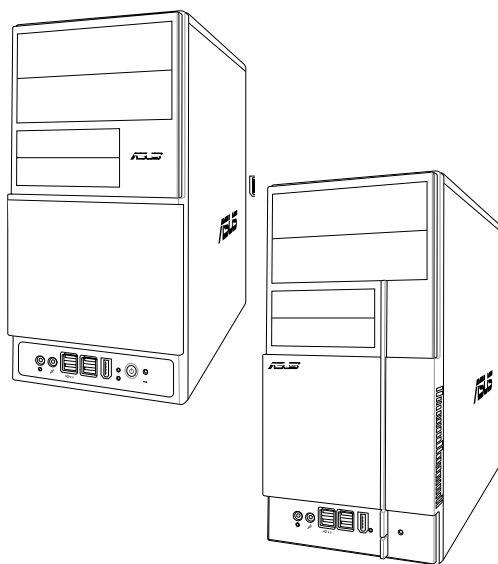
パッケージの内容	
1. ASUS V-Series M2A690G ペアボーンシステム	
• ASUS マザーボード	
• 電源ユニット	
• ASUS ケース	
• HDMI カード	
2. ケーブル	
• AC 電源ケーブル	
3. サポート CD	
4. ユーザーマニュアル	



オプションとしてカードリーダーを追加することができます。

Chapter 1

本製品の概要。フロントパネルとリア
パネル、および内部コンポーネント
などの、システムの各機能を紹介



システムの概要

1.1 ようこそ

ASUS V-Series M2A690G をお買い上げいただき、ありがとうございます。

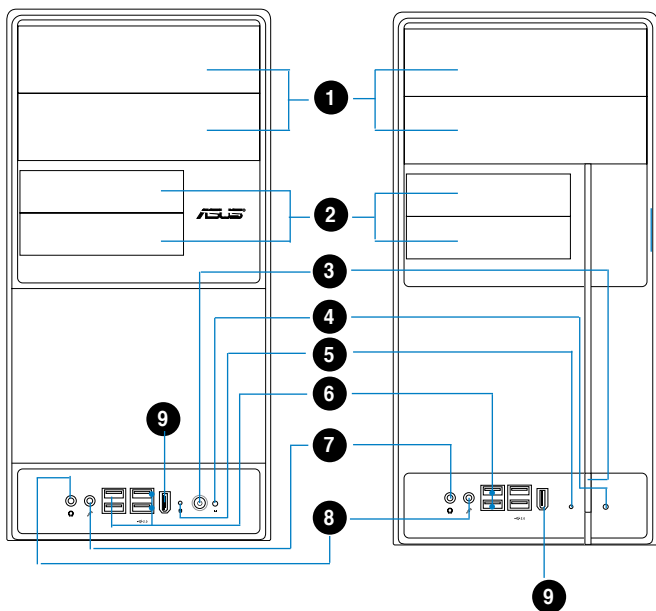
ASUS V-Series M2A690G はパワフルで扱いやすいオールインワンベアボーンシステムです。

本製品は、スタイリッシュなミニタワーケースに AMD® Athlon™ 64X2 / Athlon™ 64 / Sempron™ プロセッサをサポートする AMD Socket AM2 搭載のマザーボードを装備しています。

DDR2-800/667/533 メモリに対応し、最大 4 GB のシステムメモリを取り付けることができます。Nvidia オンボード Gfx と PCI Express x16 スロットを通じて高解像度グラフィックスをサポートし、Serial ATA、USB 2.0、8 チャンネルオーディオ機能の採用で多様化するユーザーのニーズに応えます。

1.2 フロントパネル

フロントパネルには光学ドライブベイ、フロッピーディスクドライブスロット、電源ボタン、I/O ポート等が組み込まれています。



1. **5.25インチベイ(空き:× 2)**: IDE 光学ドライブ用です。
2. **3.5インチドライブベイ**: 3.5 インチフロッピーディスクドライブ/ハードディスクドライブ用です。
3. **電源ボタン**: システムをオンにします。
4. **リセットボタン**: 電源をオフにせずに、システムを再起動します。
5. **HDD LED**: ハードディスクドライブとのデータ送受信中に点灯します。
6. **USB 2.0 ポート**: マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続します。
7. **ヘッドセットポート(グリーン)**: ステレオミニプラグ搭載のヘッドセットを接続します。
8. **マイクポート(ピンク)**: マイクを接続します。
9. **IEEE1394 ポート**: オーディオ/ビデオデバイス、ストレージ周辺機器、PC、ポータブルデバイスを接続します。



Vシリーズは V2/V3 の 2 種類のフロントパネルから選択することができます。ご購入されたフロントパネルのタイプについては、詳細は製品のパッケージをご参照ください。



PCI Express グラフィックスロットは、一般的な ATI® と NVIDIA® のビデオカードをサポートしています。なお、ATI® ビデオカードの内、ATI® X300、X550、X700、X800 シリーズ等の旧型のバージョンはサポート対象外です。ご了承ください。

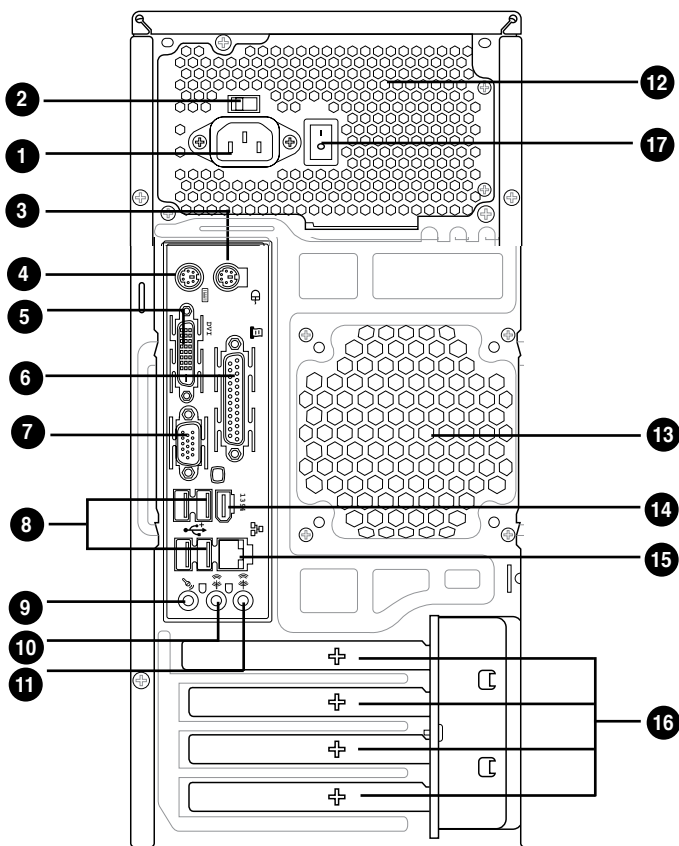


カードリーダー(下の図を参照)がオプションとして購入可能です。このカードリーダーは 3.5 インチドライブに取り付けます。マザーボードへの接続は USB ケーブルをご使用ください。



1.3 リアパネル

リアパネルには、各デバイスの接続に便利な電源コネクタ、各 I/O ポートが組み込まれています。



1. **電源コネクタ**: 電源ケーブル/プラグ用です。
2. **電圧セレクトター**: システム入力電圧を選択します。お住まいのエリアに応じて選択してください。詳細はページ 1-6「**電圧セレクトター**」をご参照ください。
3. **PS/2 マウスポート**: PS/2 マウス用です。
4. **PS/2 キーボードポート**: PS/2 キーボード用です。
5. **DVI 出力ポート**: DVI-D (Digital Visual Interface) カードを接続します。
6. **パラレルポート**: パラレルプリンター、スキャナー等のデバイスを接続します。
7. **VGA ポート**: VGA モニタや他の VGA 対応デバイスを接続します。

8. **USB 2.0ポート 1、2、3、4:**USB 2.0 デバイスを接続します。
9. **マイクポート (ピンク):**マイクを接続します。
10. **ライン出力ポート (ライム):**ヘッドセットまたはスピーカーを接続します。4チャンネルと6チャンネル構成では、フロントスピーカー出力になります。
11. **ライン入力ポート: (ライトブルー):**テープ、CD、DVDプレーヤー等のオーディオソースを接続します。
12. **電源ファン通気孔:**電源ファン用です。
13. **ケースファン通気孔:**システムケースファン用です。
14. **IEEE 1394ポート:**オーディオ/ビデオデバイス、ストレージ周辺機器、PC、ポータブルデバイスを接続します。
15. **LAN (RJ-45)ポート:**Realtek® Gigabit LAN コントローラにより、ネットワークハブを通じてローカルエリアネットワーク (LAN) でGigabit 接続が利用できます。
16. **拡張スロットカバー:**拡張カードを取り付ける際はこのカバーを取り外します。
17. **電源スイッチ:**電源ユニットのオン/オフを切り替えます。



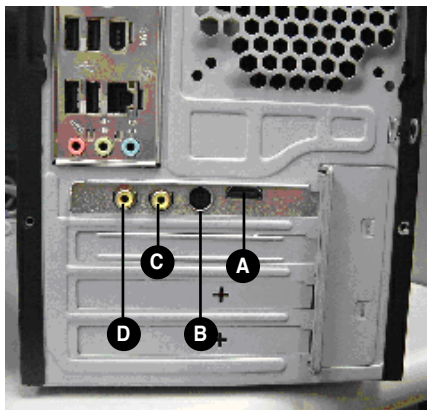
2、4、6 チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2スピーカー	4スピーカー	6スピーカー
ライトブルー	ライン入力	サラウンド出力	サラウンド出力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	センター/バス



本システムでは、HDMI カードを PCI Express x 16 スロットに取り付けることができます。右の写真はHDMI カードを取り付けたものです。HDMI カードポートについては次項をご参照ください。



HDMI カードポート

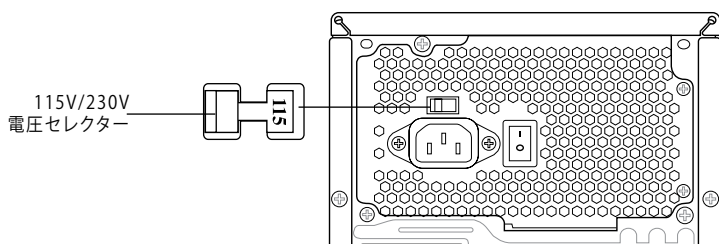
- A. **HDMIポート**:HDMI (high-definition multimedia interface) コネクタ用です。
- B. **Sビデオポート/YPbPrポート**:ビデオソースを YPbPr ケーブル/Sビデオケーブルで接続します。
- C. **ビデオポート**:ビデオソースを RCA ケーブルで接続します。
- D. **S/PDIF 出力ポート**:外部オーディオ出力デバイスをコアキシャル S/PDIF ケーブルで接続します。

電圧セクター

システム電源の電源コネクタの側には、115 V/230 V 電圧セクタースイッチが付いています。お住まいのエリアの電圧に応じて、適切な電圧を選択してください。

供給電圧が 100-127 V の場合、スイッチを 115 V にします。

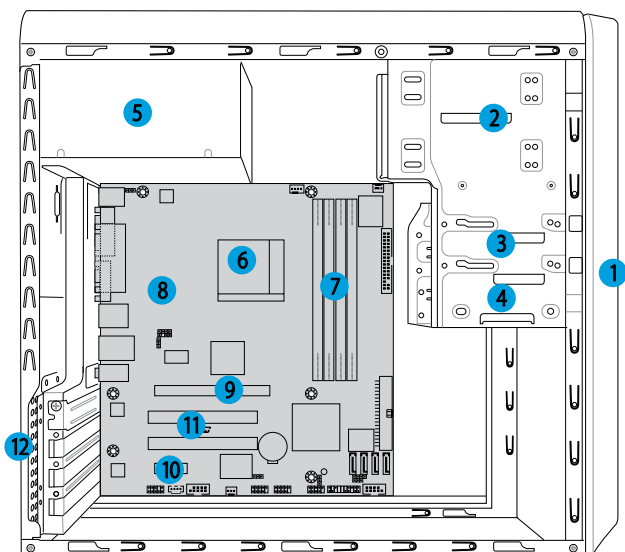
供給電圧が 200-240 V の場合、スイッチを 230 V にします。



不適切な電圧を選択した場合、システムの故障の原因となります。ご注意ください！

1.4 内部コンポーネント

下の図は、トップカバーと電源装置を取り外した状態のシステムの内部図です。各コンポーネントには番号がふってあります。追加のシステムコンポーネントについては、Chapter 2 をご参照ください。



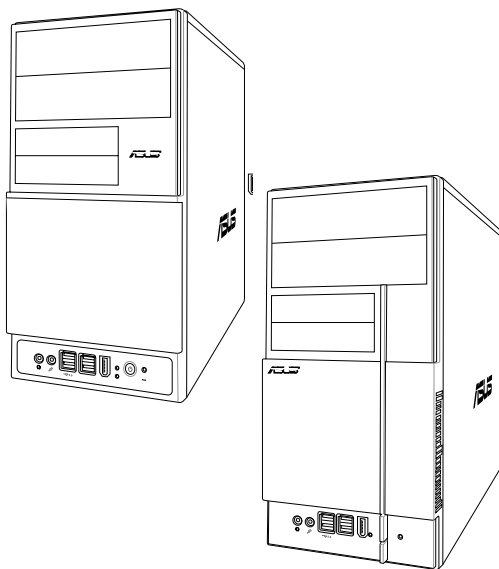
- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. フロントパネルカバー | 8. ASUS マザーボード |
| 2. 5.25インチ光学ドライブベイ | 9. PCI Express x16 スロット |
| 3. フロッピーディスクドライブベイ | 10. PCI Express x1 スロット |
| 4. ハードディスクドライブベイ | 11. PCI スロット |
| 5. 電源装置 | 12. メタルブラケットロック |
| 6. CPU ソケット | |
| 7. メモリスロット | |



本システムには HDMI カードが付属しています。詳細は Chapter 2 をご参照ください。

Chapter 2

システムのコンポーネントを取り付ける方法について



基本取り付け

2.1 準備

取り付ける前に、全てのコンポーネントが揃っているか確認してください。

取り付ける基本コンポーネント

1. CPU
2. DDR2 メモリ
3. 拡張カード
4. ハードディスクドライブ
5. 光学ドライブ
6. フロッピーディスクドライブ

工具

Phillips スクリュードライバ

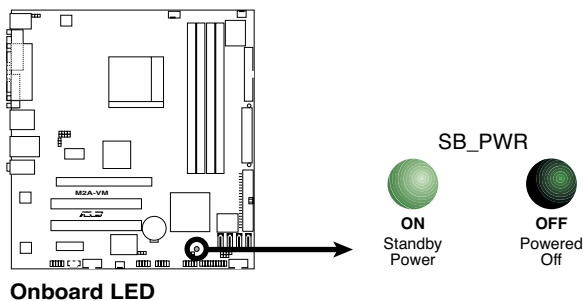
2.2 始める前に

コンポーネントをシステムに取り付ける前に次の事項に留意してください。



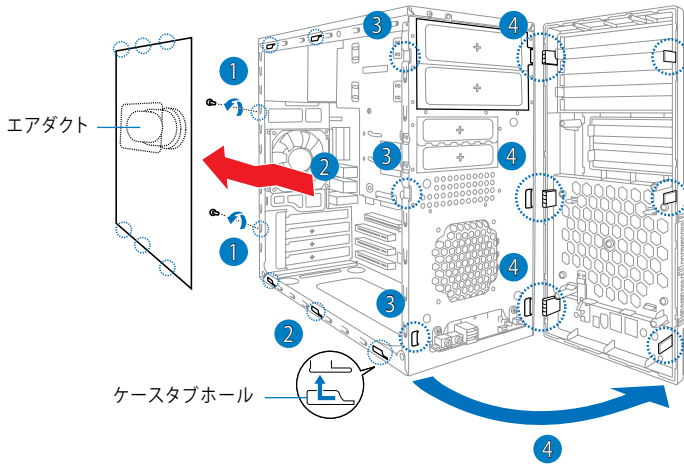
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- IC に触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置か、コンポーネントに付属する袋に入れてください。

マザーボードには、スタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑の LED が点灯します。マザーボードに各コンポーネントの取り付け・取り外しを行う際は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストはオンボード LED の位置を示しています。



2.3 サイドカバーとフロントパネルを取り外す

1. リアパネル上のカバー用ネジを外します。
2. サイドカバーをリアパネルの方向へ引き、フックをケースタブホールから外します。
3. フロントパネルフックの位置を確認し、上に上げてケースから外します。
4. 右側のヒンジ状のタブが見えるまでフロントパネルを右に回転させます。
5. フロントパネルを外します。



2.4 CPU

本マザーボードには、AMD Athlon™ 64 X2/Athlon™ 64/Sempron™ プロセッサ対応の 940ピン AM2 ソケットが搭載されています。

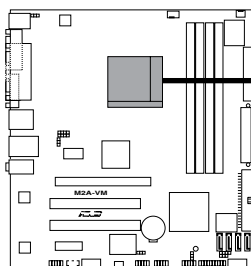


AM2 ソケットのピンレイアウトは、AMD Opteron™ プロセッサ用に設計された 940ピンソケットとは異なります。CPUを取り付ける前に CPU が AM2 ソケットに対応していることを確認してください。また、CPU を取り付けることができるのは一方のみです。CPU をソケットを無理に押し込まないでください。ソケット上のコネクタとCPUの破損の原因となります。

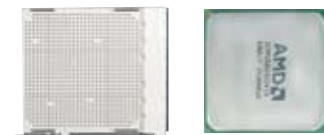
2.4.1 CPUを取り付ける

手順

1. CPU ソケットの位置を確認します。

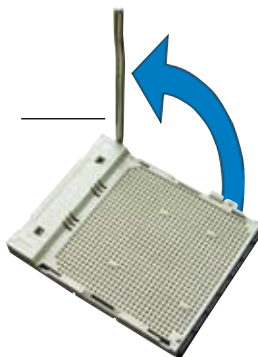


CPU Socket M2



2. ソケットの脇にあるレバーを押し、90°持ち上げてロックを解除します。

ソケットレバー



ソケットレバーを 90° 持ち上げないと、CPU を取り付けることができません。

3. 金色の三角形がマークされているコーナーと小さな三角形がマークされているソケットの位置が合うよう、CPU をソケットの上に置きます。
4. 所定の位置にはまるまで、CPU を慎重にソケットに挿入します。



CPU はしっかり取り付けてください。



5. CPU を所定の位置に挿入したら、ソケットレバーを押し下げ、CPU をロックします。ロックされるとカチッという音がします。
6. ヒートシンクパッケージに付属の説明書等の指示に従って、CPU ヒートシンクとファンを取り付けます。



2.4.2 ヒートシンクとファンを取り付ける



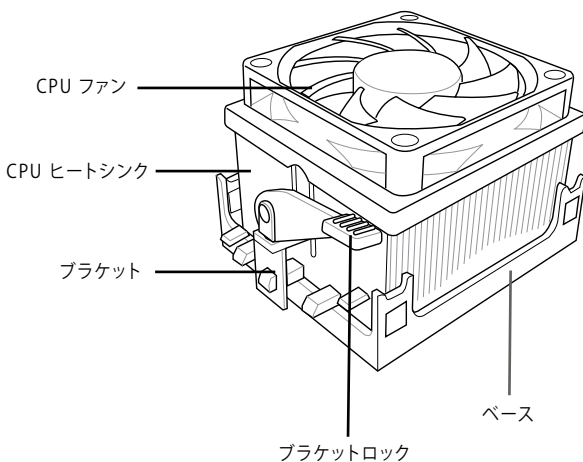
AMD公認のヒートシンクとファンのみをご使用ください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. ヒートシンクをCPUの上に置き、ヒートシンクがベースにフィットすることを確認してください。

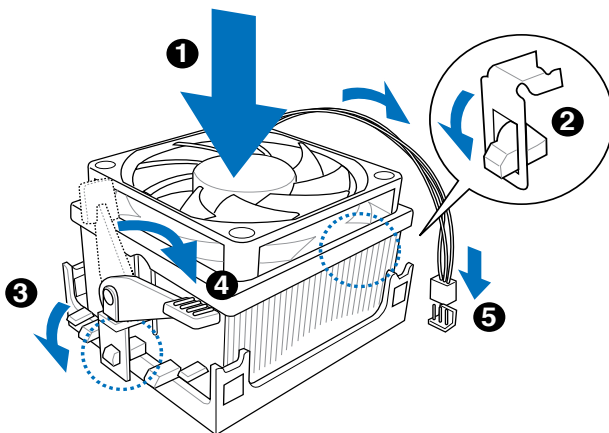


- ベースは購入時に既にマザーボード上に取り付けられています。
- CPU やその他のコンポーネントを取り外す際に、ベースを取り外す必要はありません。
- CPUヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリスをヒートシンクまたはCPUに塗布してください。



ボックス入りの CPU ヒートシンクとファンには、取り扱い説明書等が添付されています。本マニュアルの記載内容と相違点がある場合は、ボックスに添付の説明書等の記載内容に従ってください。

2. ブラケットのエッジの一方をベースに取り付けます。



3. ブラケットのエッジのもう一方を(ブラケットロックの近く)ベースに合わせます。ブラケットが所定の位置に収まると、カチッという音がします。



ファンとヒートシンクがベースにフィットしていることを確認してください。フィットしていないと、ブラケットは所定の位置に収まりません。

4. ブラケットロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。
5. CPU ファンケーブルをマザーボード上の CPU_FANコネクタに接続します。

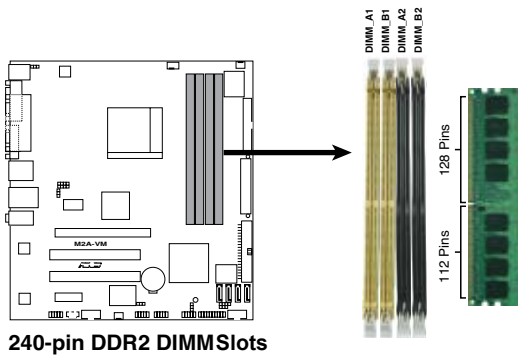


CPU ファンコネクタを必ず接続してください。ハードウェアモニタエラーが発生することがあります。

2.5 メモリを取り付ける

マザーボードには、DDR2 メモリスロットが 4 基実装されています。

次の図は、スロットの位置を示しています。



チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

2.5.1 メモリ構成

本マザーボードには DDR2 メモリスロットが 4 基実装されており、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB unbuffered ECC/non-ECC DDR2 メモリを最大4 GB 取り付けることができます。



- デュアルチャンネル構成では、各チャンネルに取り付けるメモリサイズは同じである必要があります。
例: DIMM_A1 = DIMM_B1、DIMM_A2 = DIMM_B2
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。詳細はメモリの推奨ベンダーリストをご参照ください。
- 旧型のバージョンの DDR2-667 メモリの中には、Intel On-Die-Termination (ODT) の要求を満たさないものがあり、DDR2-533 で動作します。この場合、お手数ですが販売店に ODT の値をお問い合わせください。
- 本マザーボードは 128 Mb メモリチップを搭載したメモリモジュールは動作保証しかねます。

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-533

サイズ	ベンダー	モデル	サイド	コンポーネント	メモリサポート		
					A	B	C
256MB	KINGSTON	E5116AF-5C-E	SS	KVR533D2N4/256	✓	✓	✓
512MB	KINGSTON	HYB18T512800AF37	SS	KVR533D2N4/512	✓	✓	✓
1024MB	KINGSTON	5YDID9GCT	DS	KVR533D2N4/1G	✓	✓	✓
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF37	SS	HYS64T64000HU-3.7-B	✓	✓	✓
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF37	DS	HYS64T128020HU-3.7-B	✓	✓	✓
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCD5	SS	M378T3354CZ3-CD5	✓	✓	✓
512MB	SAMSUNG	ZCD5K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CD5	✓	✓	✓
1024MB	SAMSUNG	ZCD5K4T51083QC	DS	M378T2953CZ3-CD5	✓	✓	✓
256MB	Hynix	HY5PS121621CFP-C4	SS	HYPMP532U64CP6-C4	✓	✓	✓
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-C4	DS	HYPMP512U64CP8-C4	✓	✓	✓
256MB	CORSAIR	32M16CEDG	SS	VS256MB533D2	✓	✓	✓
512MB	CORSAIR	MI1100S2432M8CEC	DS	VS512MB533D2	✓	✓	✓
1024MB	CORSAIR	64M8CEDG	DS	VS1GB533D2	✓	✓	✓
512MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E(ECC)	SS	EBE51ED8ABFA-5C-E	✓	✓	✓
512MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	SS	EBE51UD8ABFA-5C	✓	✓	✓
512MB	ELPIDA	E5108AB-5C-E	SS	EBE51UD8ABFA-5C-E	✓	✓	✓

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-667

サイズ	ベンダー	モデル	サイド	コンポーネント	メモリサポート		
					A	B	C
512MB	KINGSTON	D6408TEBGL3U	SS	KVR667D2N5/512	✓	✓	✓
1024MB	KINGSTON	D6408TEBGL3U	DS	KVR667D2N5/1G	✓	✓	✓
256MB	KINGSTON	HYB18T525680AF3S	SS	KVR667D2N5/256	✓	✓	✓
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S(ECC)	DS	HYS72T128020HU-3S-B	✓	✓	✓
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-3S	SS	HYS64T32000HU-3S-B	✓	✓	✓
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	SS	HYS64T64000HU-3S-B	✓	✓	✓
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	DS	HYS64T128020HU-3S-B	✓	✓	✓
512MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	SS	M378T6553CZ0-CE6	✓	✓	✓
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	SS	M378T3354CZ3-CE6	✓	✓	✓
512MB	SAMSUNG	K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CE6	✓	✓	✓
1024MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	DS	M378T2953CZ3-CE6	✓	✓	✓
256MB	CORSAIR	MI100605	SS	VS256MB667D2	✓	✓	✓
512MB	CORSAIR	64M8CFEG	SS	VS512MB667D2	✓	✓	✓
1024MB	CORSAIR	64M8CFEG	DS	VS1GB667D2	✓	✓	✓
256MB	ELPIDA	E2508AB-6E-E	SS	EBE25UC8ABFA-6E-E	✓	✓	✓
512MB	ELPIDA	E5108AE-6E-E	SS	EBE51UD8AEFA-6E-E	✓	✓	✓
512MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	SS	M20AD5G3H31661C52	✓	✓	✓
1024MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	DS	M20AD5G3H417611C52	✓	✓	✓
512MB	crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA663.8FD	✓	✓	✓
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD	✓	✓	✓
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL664.16FD	✓	✓	✓
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD2	✓	✓	✓
512MB	Apacer	AM4B5708GQJ57E0628F	SS	AU512E667C5KBGC	✓	✓	✓
1024MB	Apacer	AM4B5708GQJ57E	DS	AU01GE667C5KBGC	✓	✓	✓
256MB	Kingmax	N2TU51216AG-3C	SS	KLCB68F-36KH5	✓	✓	✓
512MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	SS	KLCC28F-A8KB5	✓	✓	✓
1024MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	DS	KLCD48F-A8KB5	✓	✓	✓
512MB	Transcend	E5108AE-6E-E	SS	TS64MLQ64V6J	✓	✓	✓
1024MB	Transcend	E5108AE-6E-E	DS	TS128MLQ64V6J	✓	✓	✓

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-667

サイズ	ベンダー	モデル	サイド	コンポーネント	メモリサポート		
					A	B	C
512MB	Transcend	J12Q3AB-6	SS	JM367Q643A-6	V	V	V
1024MB	Transcend	J12Q3AB-6	DS	JM388Q643A-6			
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T6UA512C5			V
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T6UB1GC5	V	V	V
512MB	SMART	G64M8XB3ITIX4TUE	SS	TB3D2667C58S	V	V	
512MB	SMART	G64M8XB3ITIX4TUE	DS	TB4D2667C58D	V	V	V

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-800

サイズ	ベンダー	モデル	サイド	コンポーネント	メモリサポート		
					A	B	C
512MB	KINGSTON	K4T51083QC	SS	KVR800D2N5/512	V	V	V
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	DS	KHX6400D2LL/1G			
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX6400D2LLK2/1GN	V	V	
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-25F	SS	HYS64T32000HU-25F-B	V	V	V
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	SS	HYS64T64000HU-25F-B	V	V	
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	DS	HYS64T128020HU-25F-B	V	V	V
512MB	SAMSUNG	EDD339XX	SS	M378T6553C23-CE7		V	V
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE7	SS	M378T3554C23-CE7	V	V	V
512MB	SAMSUNG	ZCE7K4T51083QC	SS	M378T6553C23-CE7	V	V	V
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	DS	HYPMS12U64CP8-S5	V	V	V
512MB	MICRON	5JAIIZ9DQQ	SS	MT8HTF6464AY-80EA3	V	V	V
1024MB	MICRON	5JAIIZ9DQQ	DS	MT116HTF12864AY-80EA3	V	V	V
512MB	MICRON	5ZD22D9GKX	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	V	V	V
1024MB	MICRON	5ZD22D9GKX	DS	MT116HTF12864AY-80ED4		V	V
512MB	MICRON	6CD22D9GKX	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	V	V	
1024MB	MICRON	6CD22D9GKX	DS	MT116HTF12864AY-80ED4	V	V	V
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	DS	CM2X1024-6400C4	V	V	V
1024MB	ELPIDA	E1108AB-8E-E(ECC)	SS	EBE10EE8ABFA-8E-E	V	V	V
2048MB	ELPIDA	E1108AB-8E-E(ECC)	DS	EBE21EE8ABFA-8E-E	V	V	
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA804.8FD			
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA804.8FD3	V	V	V
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA804.16FD	V		
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL804.16FD3	V	V	V
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA804.16FD3	V	V	V
512MB	Apacer	Heat-Sink Package	DS	AHU512E800C5K1C	V		
1024MB	Apacer	Heat-Sink Package	DS	AHU01GE800C5K1C	V	V	V
512MB	Transcend	K4T51083QC	SS	TS64MLQ64V8J	V	V	V
1024MB	Transcend	K4T51083QC	DS	TS128MLQ64V8J	V	V	V
512MB	KINGMAX	KKEA88B4LZUG-25DF	SS	KLDC28F-ABKB5			
1024MB	KINGMAX	KKEA88B4LZUG-25DF	DS	KLDD48F-ABKB5	V	V	V

サイド: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド CL: CAS レイテンシ

メモリサポート:

A - シングルチャンネルメモリ構成として、1 枚のモジュールを任意のスロットに取り付けることが可能。

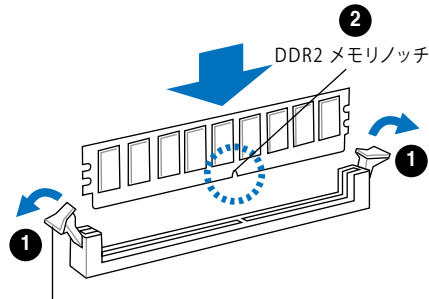
B - 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリを Channel A と Channel B に取り付けることが可能。

2.5.2 メモリを取り付ける



メモリやその他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。

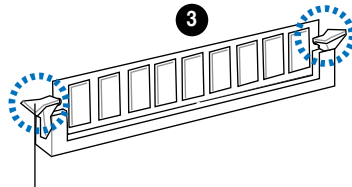


ロック解除されたクリップ



DDR 2 メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むとメモリが損傷する原因となります。

3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。

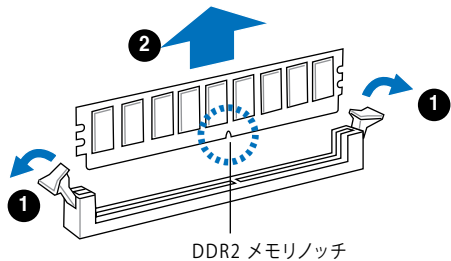


ロックされた状態のクリップ

2.5.3 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぱります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.6 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードの追加や取り外しを行う前は、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷や、マザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。



PCI Express グラフィックスロットは、一般的な ATI® と NVIDIA® のビデオカードをサポートしています。なお、ATI® ビデオカードの内、ATI® X300、X550、X700、X800 シリーズ等の旧型のバージョンはサポート対象外です。ご了承ください。

2.6.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.6.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 5 をご参照ください。
2. IRQ（割り込み要求）番号をカードに合わせます。次のページの表をご参照ください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。

標準の割り込み割り当て

IRQ	標準機能
0	システムタイマー
1	キーボードコントローラ
2	IRQ#9 にリダイレクト
4	通信ポート(COM1)*
5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート (LPT1)*
8	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	PS/2 互換マウスポート*
13	数値データプロセッサ
14	プライマリ IDE チャンネル
15	セカンダリ IDE チャンネル

* 上の IRQ は通常ISA デバイスまたは PCI デバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

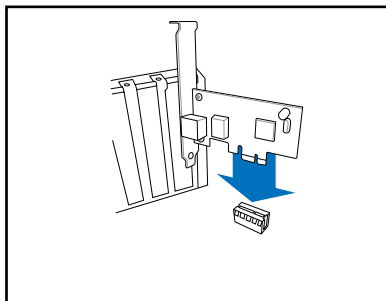
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット 1	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCI スロット 2	—	共有	—	—	—	—	—	—
PCI Express x16 スロット	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCI Express x1 スロット	—	共有	—	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 1	—	—	—	—	—	—	—	共有
オンボード USB コントローラ 2	—	—	—	共有	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 3	—	—	共有	—	—	—	—	—
オンボード USB コントローラ 4	—	—	—	共有	—	—	—	—
オンボード USB 2.0 コントローラ	—	—	—	—	—	—	—	共有
オンボード IDE ポート	—	—	—	共有	—	—	—	—
オンボード HD オーディオ	共有	—	—	—	—	—	—	—
オンボード LAN	—	共有	—	—	—	—	—	—



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなることがあります。

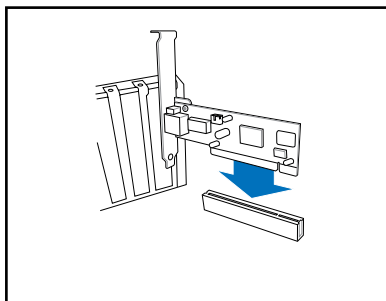
2.6.3 PCI Express x1 スロット

本マザーボードは PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カード の PCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。図はネットワークカードを取り付けたものです。



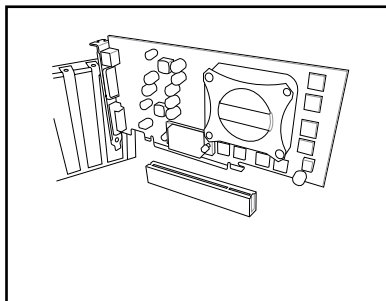
2.6.4 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。図は LAN カードを取り付けたものです。



2.6.5 PCI Express x16 スロット

本マザーボードは PCI Express 規格準拠の PCI Express x16 ビデオカードを取り付けることができます。図はビデオカードを取り付けたものです。



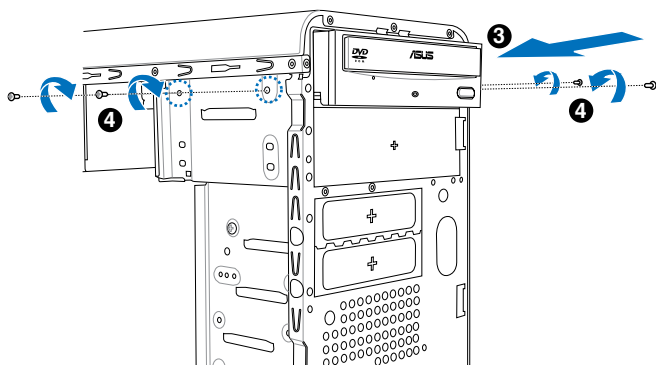
本システムには HDMI カードが付属しています。HDMI カードはオンボード PCI Express x16 スロットに取り付けます。

2.7 光学ドライブを取り付ける

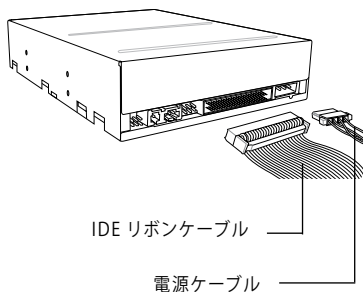
光学ドライブを取り付ける場合は、本項以降の記載に従ってください。

手順

1. ケースを図のように置きます。
2. ドライブスロット金属プレートカバーを取り外します。
3. 光学ドライブを5.25 インチドライブベイに挿入し、光学ドライブのネジ穴とベイのネジ穴の位置を合わせます。
4. 光学ドライブを2本のネジでベイに固定します。



5. 電源ユニットの電源ケーブルを光学ドライブ後部にある電源コネクタに接続します。
6. IDE リボンケーブルの一方を光学ドライブ後部にある IDE インターフェースに接続します。ケーブルの赤いストライプがIDE インターフェースの Pin 1 に合うように接続します。

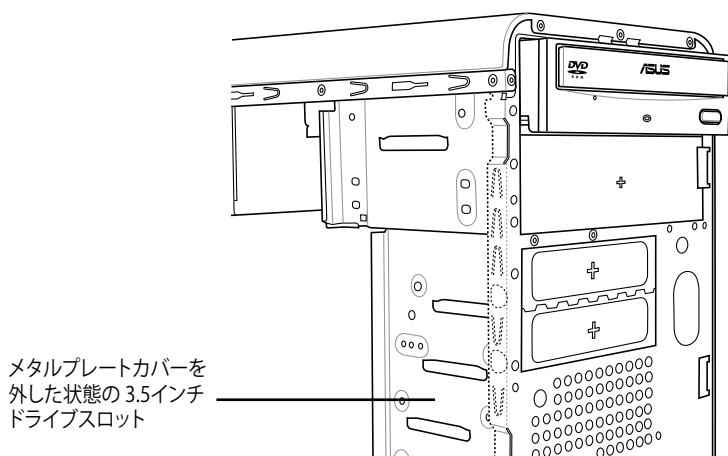


7. IDE リボンケーブルのもう一方をマザーボードのプライマリ IDE コネクタ (PRI_IDEと表示) に接続します。
8. ダミードライブスロットカバーをフロントパネルから取り外します。
9. フロントパネルを元に戻します。

2.8 ハードディスクドライブを取り付ける

手順

1. ハードディスクを慎重に下の 3.5 インチドライブスロットに入れます (メタルプレートカバーは外した状態です)。
2. ネジでハードディスクをドライブスロットに固定します。



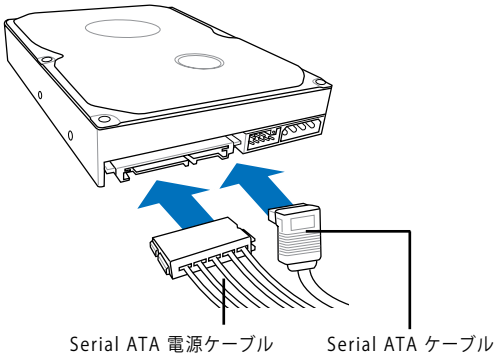
カードリーダーを取り付けない場合は、ハードディスクドライブを 3.5 インチ外部ベイに取り付けることができます。(メタルプレートカバーは赤)

3. Serial ATA ケーブルのエンドの一方をドライブ後部の SATA コネクタに接続します。次に、もう一方のエンドをマザーボードの Serial ATA コネクタに接続します。Serial ATA コネクタの位置についてはページ 4-7 をご参照ください。

- 15ピン Serial ATA 電源プラグで電源装置とドライブ後部の 15ピン電源コネクタを接続します。

-または-

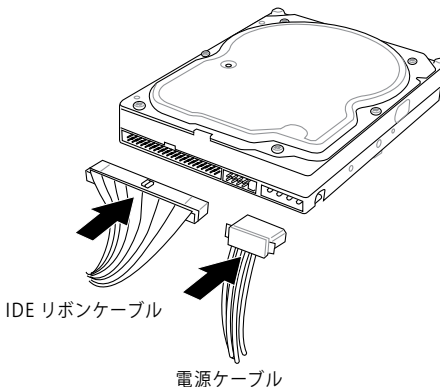
4ピン(メス)電源プラグで電源装置とドライブ後部の 4ピン(オス)電源コネクタを接続します。



お使いの Serial ATA ハードディスクドライブ の後部に、4ピンコネクタと 15ピンコネクタ両方が付いている場合は、15ピン SATA 電源アダプタプラグまたはレガシー 4ピン電源コネクタの「いずれか」をご使用ください。両方使用した場合、コンポーネントの故障またはシステムが不安定になる原因となります。

IDE ハードディスクドライブを取り付ける

1. 前のセクションの手順 1~2 に従ってください。
2. IDE リボンケーブルのブルーのインターフェースをマザーボードのプライマリ IDE コネクタ (ブルーのコネクタ、PRI_IDEと表示) に接続します。コネクタの位置はページ 4-6 をご参照ください。



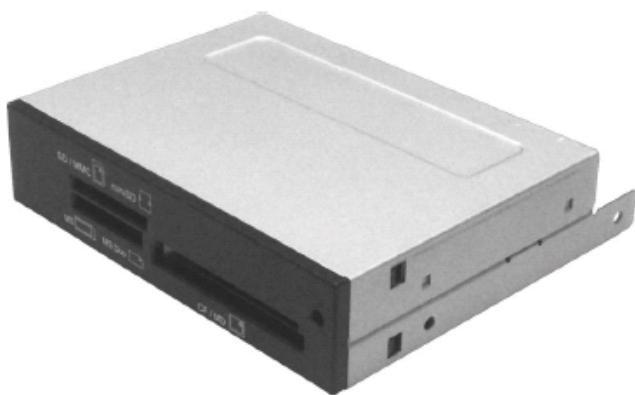


- ハードディスクドライブを1台だけ取り付ける場合は、IDE ケーブルと電源プラグを接続する前に、ハードディスクドライブをマスターデバイスに設定します。マスターデバイスに設定する方法は、ハードディスクドライブの説明書等を参照ください。
- IDE ハードディスクドライブを2台取り付ける場合は、2台目をスレーブに設定します。

3. IDE リボンケーブルのグレイのインターフェースをドライブの IDE コネクタに接続します。
4. IDE ハードディスクドライブを2台接続する場合は、IDE リボンケーブルのブラックのインターフェースをセカンド(スレーブ)IDE ハードディスクドライブの IDE コネクタに接続します。
5. 4ピン電源プラグで電源装置とドライブ後部にある電源コネクタを接続します。

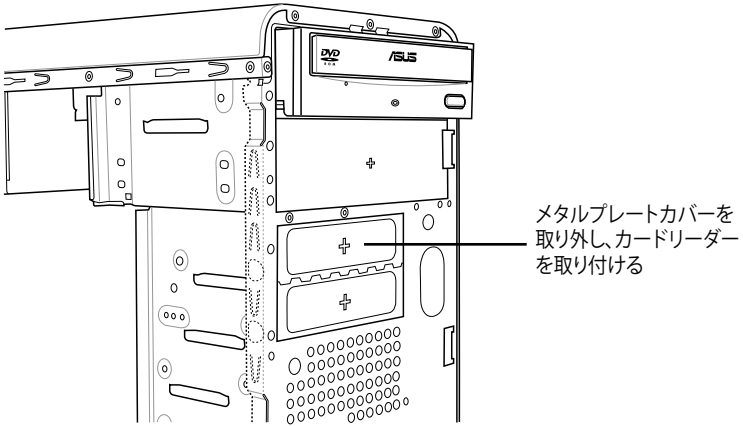
2.9 カードリーダーを取り付ける

オプションとしてカードリーダーをシステムに取り付けることができます。カードリーダーを取り付ける場合は、次項以降の指示に従ってください。



カードリーダーを取り付ける

1. ドライブスロットメタルプレートカバーを取り外します。
2. カードリーダーを慎重に 3.5インチベイに入れ、カードリーダーのネジ穴とベイのネジ穴の位置を合わせます。
3. カードリーダーをネジで固定します。



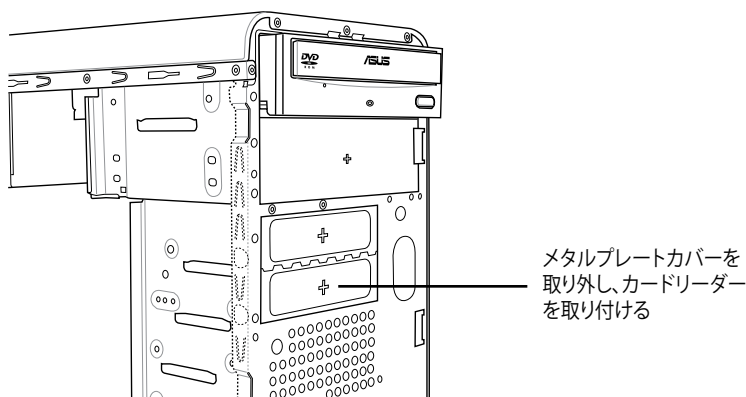
4. カードリーダーのUSB ケーブルをマザーボードのUSB コネクタに接続します。

2.10 フロッピーディスクドライブを取り付ける

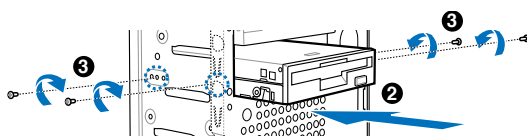
本システムには、3.25 インチドライブベイが搭載されており、フロッピーディスクドライブを1台取り付けることができます。

手順

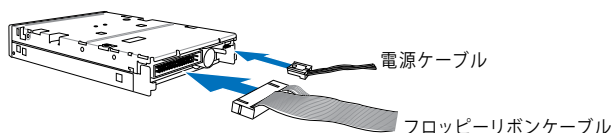
1. ドライブスロットメタルプレートカバーを取り外します。



2. フロッピーディスクドライブをフロッピードライブベイに挿入し、ドライブのネジ穴とベイのネジ穴の位置を合わせます。
3. 2本のネジでベイにフロッピーディスクドライブを固定します。



4. フロッピーディスクドライブの信号ケーブルをドライブ後部にあるコネクタに接続します。

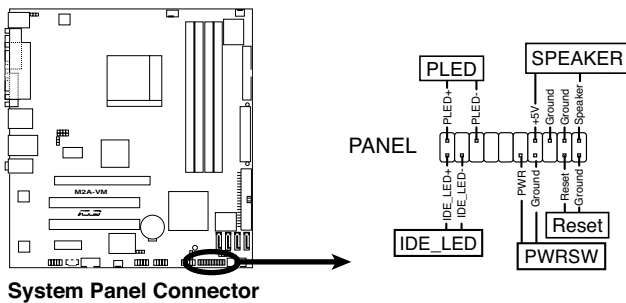
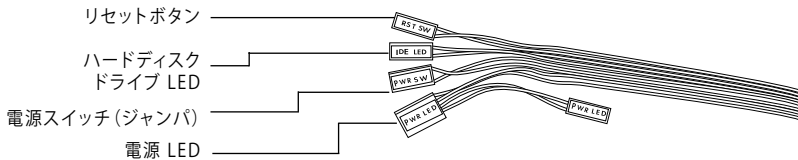


5. 信号ケーブルのもう一方をマザーボードのフロッピーディスクドライブコネクタに接続します。このコネクタについての詳細はページ 4-6 をご参照ください。
6. 4ピン電源ケーブルで電源装置とフロッピーディスクドライブ電源コネクタを接続します。

2.11 ケーブルを接続する

コンポーネントを取り付ける際に取り外したケーブルを再び取り付けます。

LED ケーブル

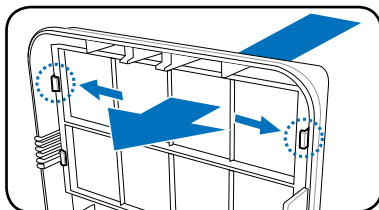


リセットボタンケーブル、電源スイッチケーブル、電源 LED ケーブル、ハードディスクドライブ LED ケーブルを、対応するシステムパネルコネクタにそれぞれ接続します。

2.12 カバーを取り付ける

光学ドライブまたはフロッピーディスクドライブの取り付けが終了したら、ケースに取り付ける前にフロントパネルのベイカバーを取り外す必要があります。

1. ベイカバーロックの位置を確認します。
2. ロックを外側に押し、ベイカバーを外します。
3. ベイカバーを内側に押し、脇に置きます。
4. 3.5インチドライブベイカバーを取り外す際も、手順は同じです。

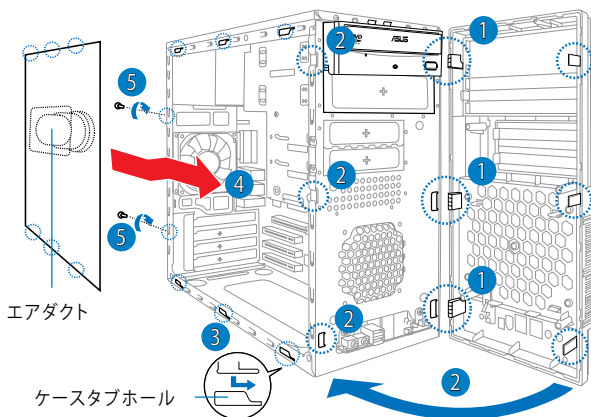


フロントパネルとサイドカバーを取り付ける

1. フロントパネルのヒンジ状のタブをケース右側の穴に挿入します。
2. フロントパネルを左方向に回転させます。
3. サイドカバーフックをケースのタブホールにはめます。
4. 所定の位置に収まるまでサイドカバーをフロントパネルの方向に押します。
5. カバーを2本のネジで固定します。

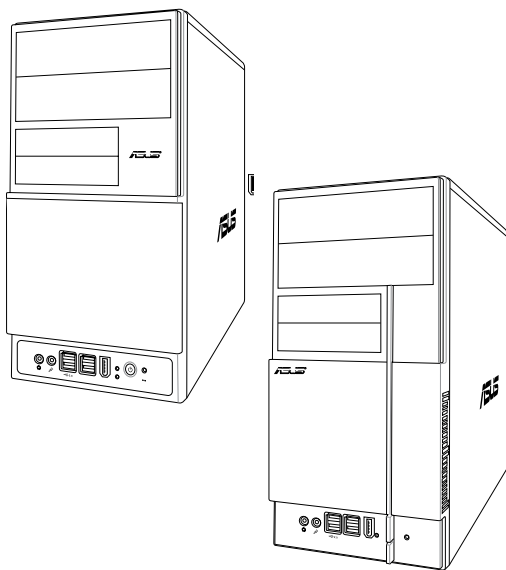


エアダクトがCPUファンの妨げになる場合は、エアダクトを調節してください。



Chapter 3

システムの電源をオンにする方法、
サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法について



起動

3.1 OSをインストールする

本ベアボーンシステムは、Windows® XP/Vista をサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。



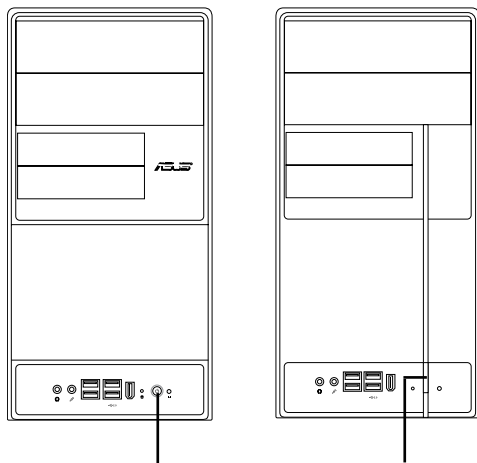
ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。



- Windows XP OS では、関連ドライバがないと Serial ATA ハードドライブを検出できません。Windows XP OS を Serial ATA ハードドライブにインストールする際は、付属のフロッピーディスクをご使用ください。
- Windows XP セットアップ画面でメッセージが表示されたら<F6>キーを押し、表示される指示に従って SATA ドライバをインストールします。

3.2 電源をオンにする

システム電源ボタン(⏻)を押すと、OS が起動します。



このボタンを押すと電源がオンになります。

3.3 サポート CD 情報

付属のサポート CD には、ソフトウェアや各種ユーティリティドライバが収録されています。



- 画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。
- サポートCDの内容は、将来予告なしに変更することがあります。更新版はASUS Webサイト (www.asus.co.jp) でお求めください。

3.3.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。コンピュータでAutorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



その他の情報を
表示

インストールする項目を選択



Autorunが有効になっていない場合は、サポートCDのBINフォルダからASSETUP.EXEを探してください。ASSETUP.EXEをダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

3.3.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



ASUS InstAll - Drivers Installation Wizard

ASUS InstallAll ドライバウィザードを起動します。

AMD Cool 'n' Quiet Driver

AMD Cool 'n' Quiet ドライバをインストールします。

AMD Chipset Program Driver

AMD チップセット用のドライバをインストールします。

Realtek Audio Audio Driver

Realtek® ALC883 オーディオドライバとアプリケーションをインストールします。

Realtek RTL8111b 10/100/1000M LAN Driver

Realtek® RTL8111b 10/100/1000M LAN ドライバをインストールします。

USB 2.0 Driver

USB 2.0 ドライバをインストールします。



画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。

3.3.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで利用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



ASUS InstAll - Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll ユーティリティインストールウィザードを起動します。

ASUS Cool 'n' Quiet Utility

ASUS Cool 'n' Quiet ユーティリティをインストールします。

ASUS Update

Windows®環境で BIOS のアップデートが行えます。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。

ASUS PC Probe II

ファンスピードとCPU 温度、システム電圧を監視し、問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えばコンピュータを常に正常な状態に維持することができます。

ASUS Music Alarm

CD の音楽をアラームとして使用することができます。



画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。

ATI WebPAM Utility

Serial ATA (SATA) RAID/AHCI ドライバディスクを設定します。詳細はサポートCD/DVDに収録の RAID マニュアルをご参照ください。



この項目はBIOSの「**Onboard SATA Type**」項目を [RAID Controller] にすると表示されます。詳細はページ 5-24 をご参照ください。

3.3.4 Make Disk メニュー

RAID ドライバディスクを作成します。



Make ATI RAID/AHCI Driver

ATI® Serial ATA (SATA) RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。

Make ATI RAID/AHCI Vista Driver

Windows® Vista 用のATI® Serial ATA (SATA) RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。

3.3.5 マニュアルメニュー

サードパーティ製のコンポーネント、または各アプリケーションのユーザーマニュアルを見ることができます。

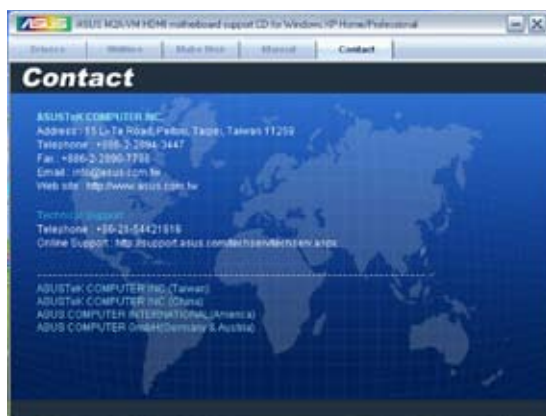


ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDF ファイルを見るには、Utilities タブの Adobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールしてください。



3.3.6 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーション。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。



3.4 ソフトウェア情報

サポート CD に収録のアプリケーションのほとんどにはウィザードが含まれており、簡単にインストールすることができます。詳細はオンラインヘルプまたは Readme ファイルをご参照ください。

ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントをモニタし、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心にモニタします。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時からモニタを開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポートCD を光学ドライブに入れます。OS の Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCD の ASUS PC Probe II フォルダから setup.exe を探してください。setup.exe をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. 「Utilities」タブ→「ASUS PC Probe II」の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでも PC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる: 「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「PC Probe II」→「PC Probe II v1.xx.xx」の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。












三角をクリックして
Preference を閉じる

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを開いたり閉じたりすることができます。

PC Probe II を使う

メインウィンドウ

PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。初期設定値では Preference が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。

ボタン	機能
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	ハードディスクドライブ、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサ

システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニタパネルも赤色になります。「ハードウェアモニタパネル」参照。

Preferences

メイン画面の Preference で使用中のアプリケーションをカスタマイズすることができます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニタパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニタパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6角形(大)と長方形(小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニタパネルがデスクトップに表示されます。



6角形(大)



長方形(小)

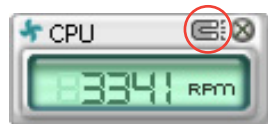
モニタパネルの位置を変える

モニタパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Schemeのボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



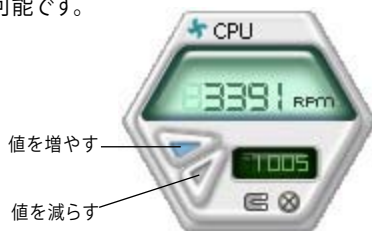
モニタパネルを分解する

モニタパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。長方形(小)のモニタパネルでは基準値を調節することはできません。

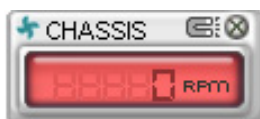


警告センサーモニタ

コンポーネントの値が基準値を上回ったり、下回ったりすると赤色になります。



六角形 (大)



長方形 (小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



Usage

CPU、ハードディスクドライブ空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。

USAGE をクリックしてUsage を開きます。

CPU

リアルタイムの CPU 使用率が線グラフで表示されます。デュアルコアのCPU をご使用の場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



Hard disk

ハードディスクドライブの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



Memory

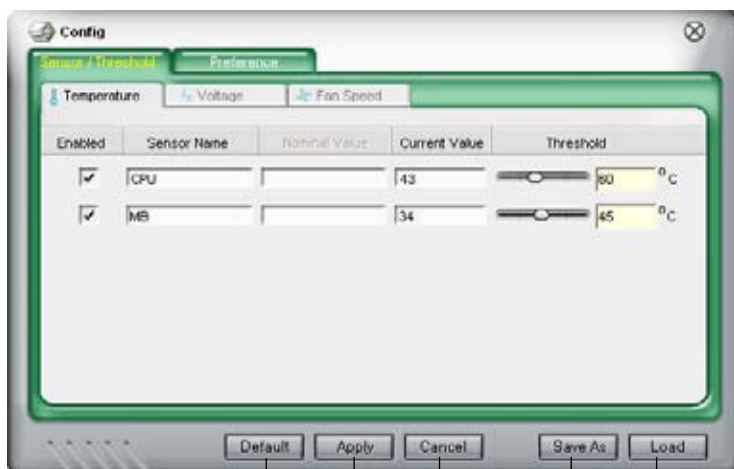
物理メモリの使用率を表示します。
円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

CONFIG をクリックしてセンサーの基準値を確認・調節します。

Config には 2 つのタブがあります: Sensor/Threshold と Preference です。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基準値を調節します。Preference タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。



初期設定値をロード

変更を適用

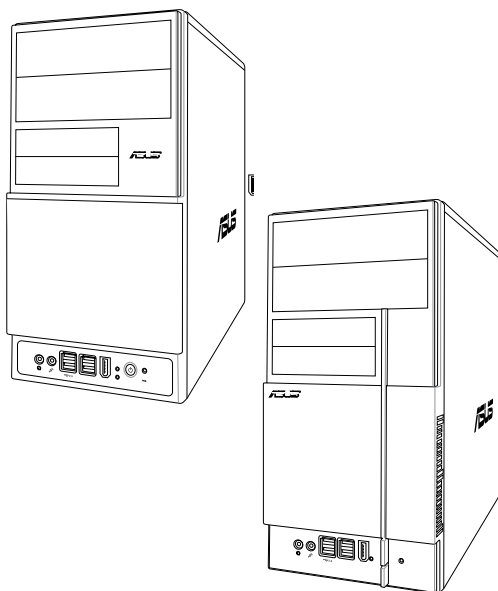
変更をキャンセル

保存した設定をロード

設定を保存

Chapter 4

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明

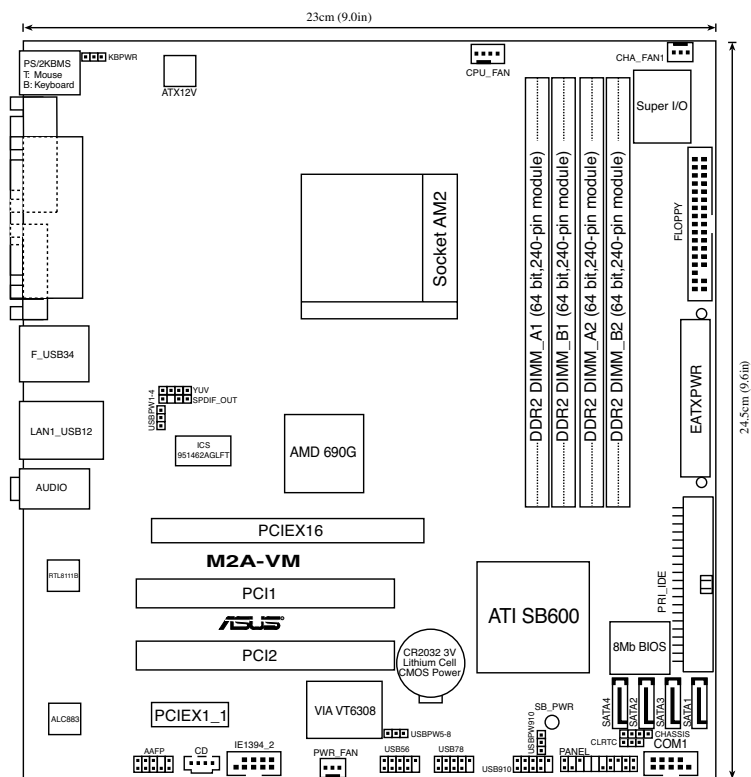


マザーボード情報

4.1 マザーボードの概要

本ベアボーンシステムには ASUS マザーボードが付属しています。ここでは、技術的な情報やシステム構成について説明します。

4.2 マザーボードのレイアウト



4.3 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア (CLRRTC)

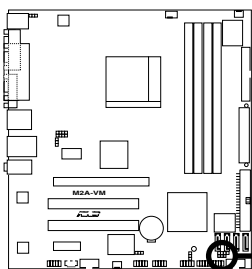
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック (RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの維持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. ジャンパキャップをピン 1-2 (初期設定) からピン 2-3 に移動させます。5～10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間→「キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



Clear RTC RAM

CLRRTC

1 2
Normal
(Default)

2 3
Clear RTC

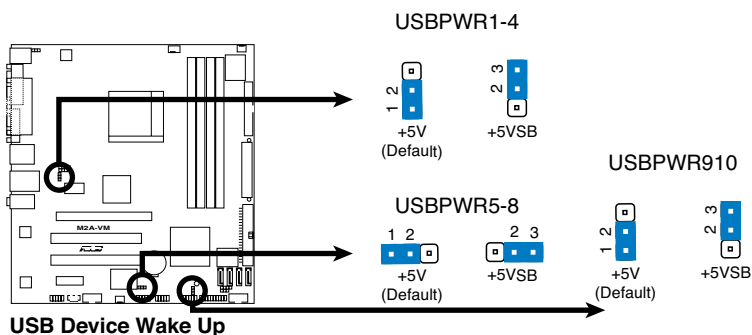


オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、C.P.R. (CPU Parameter Recall) 機能をご利用いただけます。システムを停止して再起動すると、BIOS は自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。

2. USB デバイスウェイクアップ (3ピン USBPW1-4, USBPW5-8, USBPW910)

USB デバイスを利用して、S1 スリープモード (CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) からウェイクアップするには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモード (CPU への電源供給がゼロの状態、スローリフレッシュ状態の DRAM、電力削減モード) からウェイクアップするには、+5VSB に設定します。

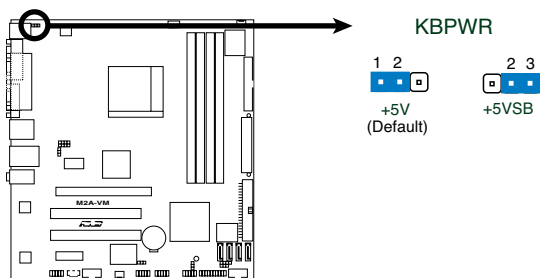
USBPW1234 ジャンパはリア USB ポート用です。USBPW5678 ジャンパは追加 USB ポートを接続する内部 USB コネクタ用です。



- USB デバイスウェイクアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムはウェイクアップしません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力 (+5VSB) を超過してはいけません。

3. キーボード電源(3ピン KBPWR)

このジャンパはキーボードウェイクアップ機能の切り替え用のジャンパです。キーボードのキーを押してコンピュータをウェイクアップさせる場合は(初期設定はスペースバー)、このジャンパをピン 2-3 (+5VSB) にします。この機能には +5VSB リード線に最低 500 mA 供給可能な ATX 電源と BIOS 設定が必要です。



Keyboard Power Setting

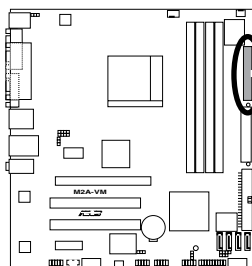
4.4 コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ(34-1ピンFLOPPY)

フロッピーディスクドライブ(FDD)ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



Floppy Disk Drive Connector

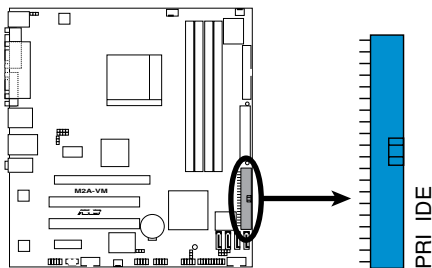
FLOPPY

PIN 1

注意: フロッピーケーブルの赤いラインと PIN1の向きを合わせてください。

2. IDE コネクタ (40-1ピンPRI_IDE)

Ultra DMA 100/66/33 ケーブル用です。各Ultra DMA 100/66/33 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下のいずれかのモードを選択してください。



IDE Connector

	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	Cable-Select/ マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/ グレー
	スレーブ	スレーブ	



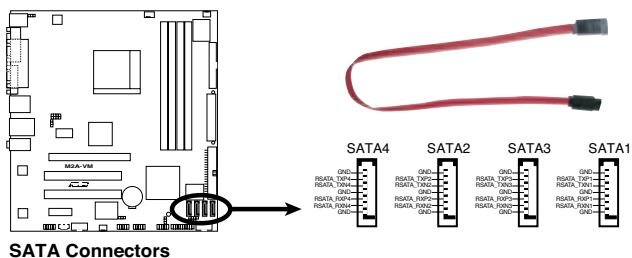
- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- DMA 100/66/33 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプのIDEケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。

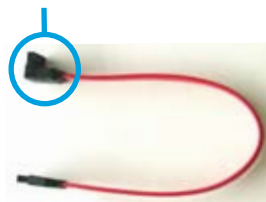
3. Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1、SATA2、SATA3、SATA4)

これらコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブに使用します。



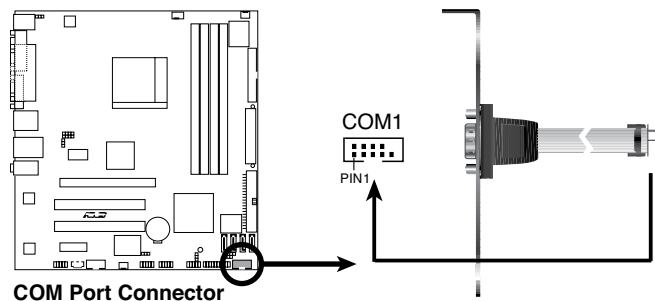
SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

直角部分



4. Serial ポートコネクタ (10-1ピンCOM2)

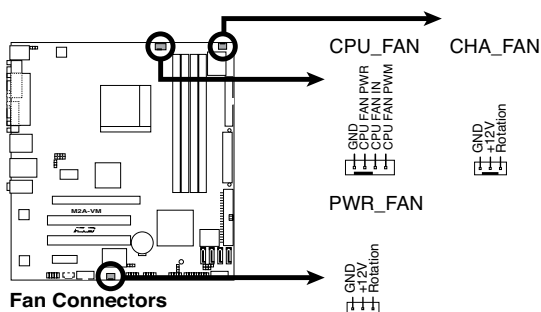
Serial (COM) ポート用です。Serial ポートモジュールケーブルをこのコネクタに接続します。



COM モジュールは別売りとなっております。

5. CPU ファンコネクタ、電源 ファンコネクタ、ケースファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN、3ピン PWR_FAN)

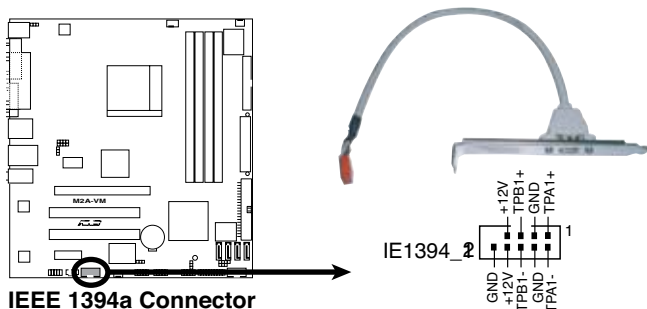
各ファンコネクタは+12Vでトータルで1A~2.2A (最大 26.4W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。

6. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1ピンIE1394_2)

IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブルをこのコネクタに接続します。



USBケーブルを IEEE 1394a コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



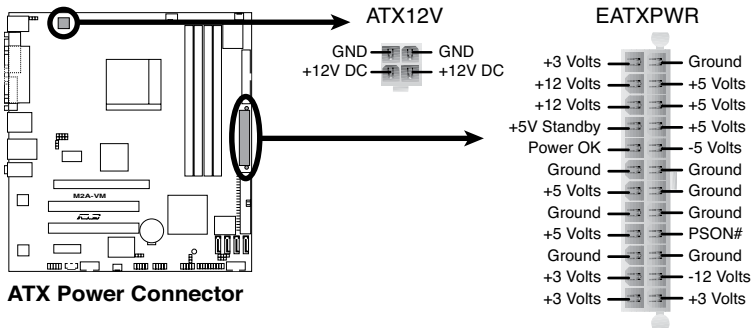
IEEE 1394 モジュールは別売りとなっております。

7. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)

ATX 電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。

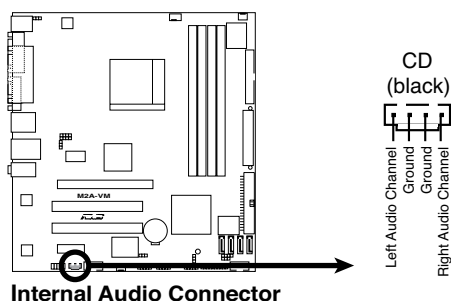


ユーザーが電源ユニットを交換された場合は ASUS の保証サービスの適用外となります。ご了承ください。



8. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD1)

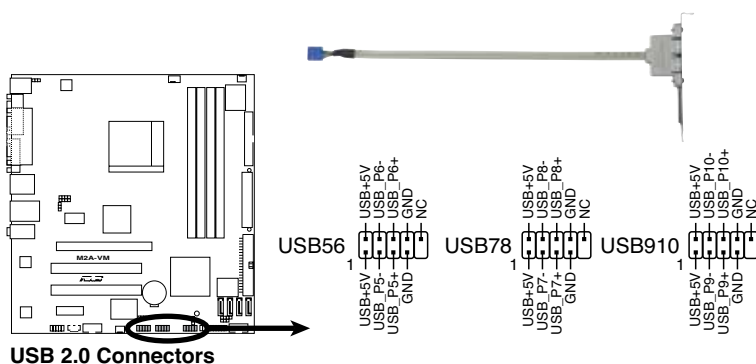
CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



このコネクタをご使用の際は、オーディオユーティリティのCD入力機能を有効にしてください。

9. USB コネクタ (10-1ピンUSB56、USB78、USB910)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



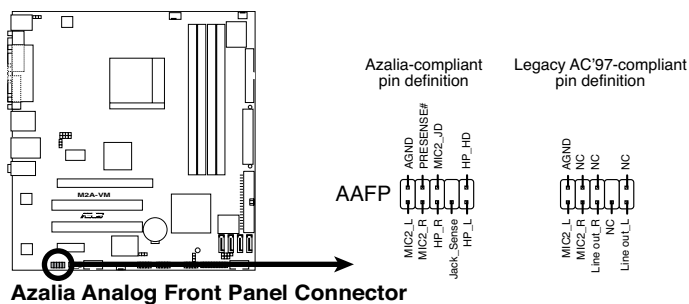
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



USB モジュールは別売りとなっております。

10. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピンAAFP1)

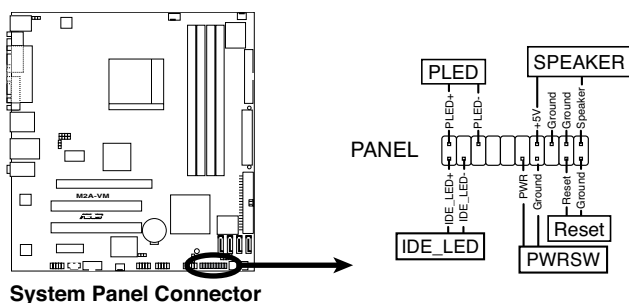
ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオをサポートしています。



- HDオーディオ機能を最大限に活用するため、HDフロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。

11. システムパネルコネクタ(12ピン PANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



- **システム電源 LED (2ピン PLED)**

システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- **ハードディスクドライブ Activity (2ピン HDLED)**

ハードディスクドライブActivity LED用です。ハードディスクドライブActivity LEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがハードディスクドライブと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。

- **ビーブ (Beep) スピーカー (4ピン SPEAKER)**

ケース取り付けのビーブスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を発します。

- **電源ボタン/ソフトオフボタン (2ピン PWRSW)**

システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源ボタンを押すと、システムの電源はオフになります。

- **リセットボタン (2ピン RESET)**

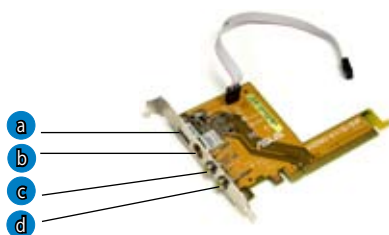
ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

12. HDMI カードポートコネクタ

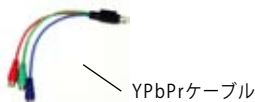
HDMI カードには 4 基のポートが搭載されており、ビデオ/オーディオソースを接続することができます。HDMI モジュールをオンボード PCI Express x16 スロットに、HDMI モジュールケーブルをオンボード YUV/SPDIF_OUT コネクタにそれぞれ接続します。



HDMI モジュールを取り付けたら、「スタート」→「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」→「Sound Playback」の順にクリックし、「Sound Playback」のオーディオデバイスを HDMI Audio リア出力に設定します (名称は OS により異なる)。



- a. **HDMIポート**：HDMIコネクタ用です。
- b. **S-Videoポート / YPbPrポート**：ビデオソースを YPbPr ケーブルまたは Sビデオケーブルで接続します。



- c. **ビデオポート**：ビデオソースを RCAケーブル で接続します。
- d. **S/PDIF Outポート**：外部オーディオ出力デバイスをコアキシャル S/PDIFケーブルで接続します。



- YPbPr ケーブル、RCAケーブル、S-Video ケーブルは別売りとなっております。
- YPbPr、AV、S、RGB 端子は、同時出力できません。

デュアルディスプレイモードの一覧

下の表は、デュアルディスプレイモードのサポート状況を表にしたものです。

オンボード VGA ポート		HDMI モジュールポート	
DVI	RGB	HDMI	TV (Sビデオ/ビデオ/YPbPr)
•	•		
•		•	
•			•
	•	•	
		•	•

HD DVD ディスクと Blu-Ray ディスクを再生する

再生のクオリティは、CPU/メモリのスピード、DVD プレーヤー、各ドライバー等のスピードと帯域に左右されます。CPU/メモリは高速/広帯域のもの、DVD プレーヤーとドライバーは高速バージョンのものをそれぞれ使用することで、再生のクオリティを上げることができます。下の例は設定例の1つです。

CPU - AMD 3800+ X2 デュアルコア

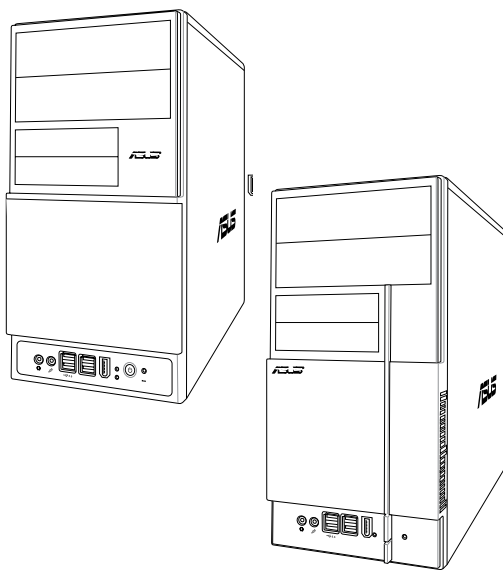
メモリ - 容量1GB のDDR2-800 (デュアルチャネルモード) × 2

再生ソフトウェア - CyberLink PowerDVD V.7.3

ファイルフォーマット	最適な解像度	
	XP	Vista
保護されていないクリップ	1920×1080p	1920×1080p
HD-DVD VC1	1920×1080i	1280×720p
Blu-Ray MPEG2	1280×720p	1280×720p

Chapter 5

BIOSセットアップメニューでのシステム
設定、変更方法、BIOSパラメータの説明



BIOS セットアップ

5.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS EZ Flash 2** (DOS環境でBIOSを更新。フロッピーディスク/USB フラッシュディスク/サポートCDを使用)
2. **Award BIOS Flash Utility** (DOS モードで更新。ブートフロッピーディスクを使用)
3. **ASUS CrashFree BIOS 3** (BIOS がダメージを受けた場合、ブートフロッピーディスク/USB フラッシュディスク/サポート CD を使用して BIOS を更新)
4. **ASUS Update** (Windows® 環境でBIOSを更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の名説明を参照してください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスク/USB フラッシュディスクにコピーしてください。BIOS のコピーには ASUS Update または AFUDOS を使用します。

5.1.1 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。

DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、**format A:/S**を入力し、<Enter>を押します。

Windows® XP/Vista 環境

- a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
- d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. フォーマットオプションから、「MS-DOSの起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。

2. オリジナルまたは最新のマザーボードのBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

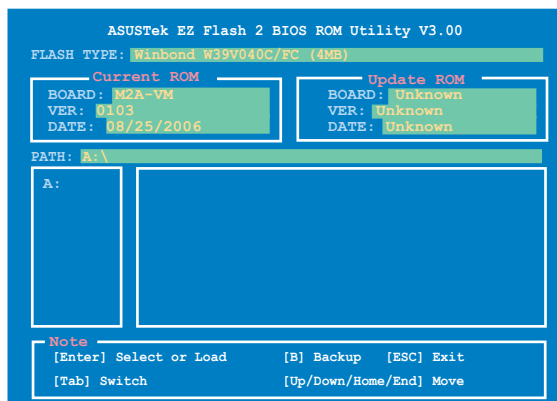
5.1.2 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2> を押すことで起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USB フラッシュディスクに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
 - (1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USB フラッシュディスクをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。

POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。
<Tab> を使ってドライブを変更し <Enter> を押します。
4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が自動的に BIOS をアップデートし、システムが再起動されます。



- FAT 32/16/12 フォーマットのUSBフラッシュディスク、フロッピーディスク等のデバイスのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

5.1.3 Award BIOS Flash

AwardBIOS Flash を使用して BIOS ファイルを更新します。

1. ASUS Web サイト(www.asus.co.jp) から最新の BIOS ファイルをダウンロードしてください。ファイルフォーマットを「.BIN」に変更し、ブートフロッピーディスクに保存します。



間違った BIOS ファイルをインストールしないように、フロッピーディスクには、更新用の BIOS ファイルのみを保存してください。

2. AwardBIOS Flash Utility (awdf flash.exe) を最新の BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクにコピーします。
3. 作成したブートフロッピーディスクからDOS モードでシステムを起動します。
4. A:> と表示されたら、フロッピーディスクを取り出し、最新の BIOS ファイルと本ユーティリティを保存したフロッピーディスクを入れます。
5. プロンプトで「awdf flash」と入力し<Enter>を押すと、Award BIOS Flash Utility 画面が表示されます。



図は参照用です。図に表示されている情報は実際の表示内容と異なる場合があります。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V8.64
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For -MCP61S-M2A-VM-00      DATE:08/25/2006
Flash Type - Winbond W39V040FC/C(4Mb)

File Name to Program: 

Message: Please input File Name!
```

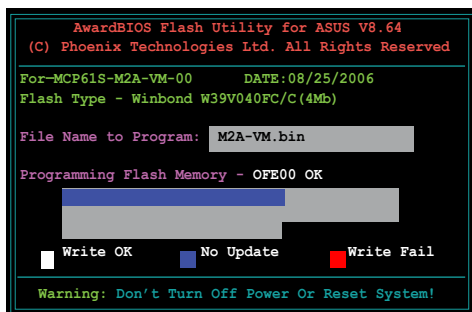
6. 「File Name to Program」に BIOS ファイル名を入力して<Enter>を押してください。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V8.64
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For -MCP61S-M2A-VM-00      DATE:08/25/2006
Flash Type - Winbond W39V040FC/C(4Mb)

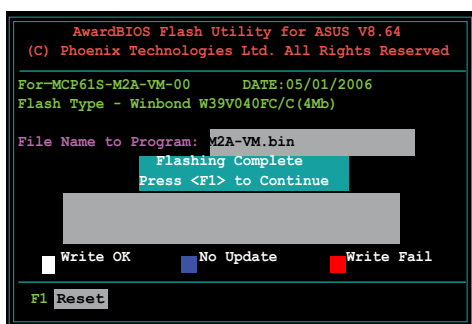
File Name to Program: M2A-VM.bin
```

7. BIOS ファイルを保存する、という内容の指示が出たら、<N>を押すと、次の画面が表示されます。
8. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。



更新中にシステムのシャットダウン、リセットを行わないでください。

9. 「**Flashing Complete**」というメッセージが表示されます。これは BIOS の更新が完了したことを示します。フロッピーディスクを取り出し、<F1>を押してシステムを再起動します。



5.1.4 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 は BIOS の自動復旧ツールで、BIOS 更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOS ファイルはサポート CD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク/USB フラッシュディスクで更新することができます。



このユーティリティを使用する前に、サポート CD または BIOS を保存したフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

サポート CD から BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、CD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy not found!  
Reading file "M2A-VM.bin". Completed.  
Start flashing...
```

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。

USB フラッシュディスクから BIOS を復旧する

手順

1. 最新の BIOS を ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードし、BIOS ファイルの名前を「WDG2WSP.ROM」に変更します。
2. BIOS ファイルを保存した USB フラッシュディスクを USB ポートにセットします。
3. システムをオンにします。

4. デバイスが検出されると自動的に BIOS ファイルを読み込み、BIOS の更新が開始されます。
5. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。



-
- ASUS CrashFree BIOS 3 は FAT 32/16 フォーマットでシングルパーティションの USB フラッシュディスクのみをサポートします。デバイスサイズは 8GB 未満である必要があります。
 - 更新には 1 分程かかります。
 - BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。
-

5.1.5 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- インターネットから直接 BIOS を更新する
- BIOS のバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。ドライブメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「**Install ASUS Update VX.XX.XX**」をクリックします。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

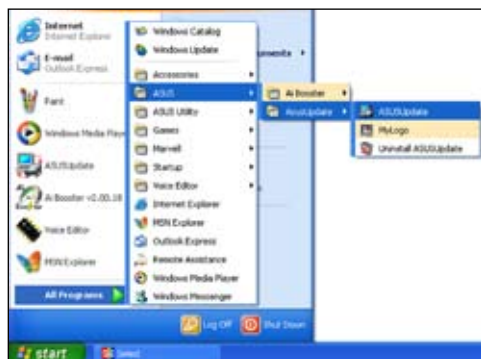


このユーティリティを使用して BIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. 「スタートメニュー」→「プログラム」→「ASUS」→「ASUSUpdate」→「ASUSUpdate」をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。
3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「**Next**」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



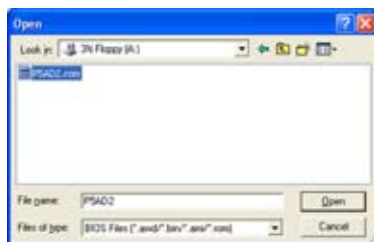
BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. 「スタートメニュー」→「プログラム」→「ASUS」→「ASUSUpdate」→「ASUSUpdate」をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「**Update BIOS from a file**」を選択し、「**Next**」をクリックします。

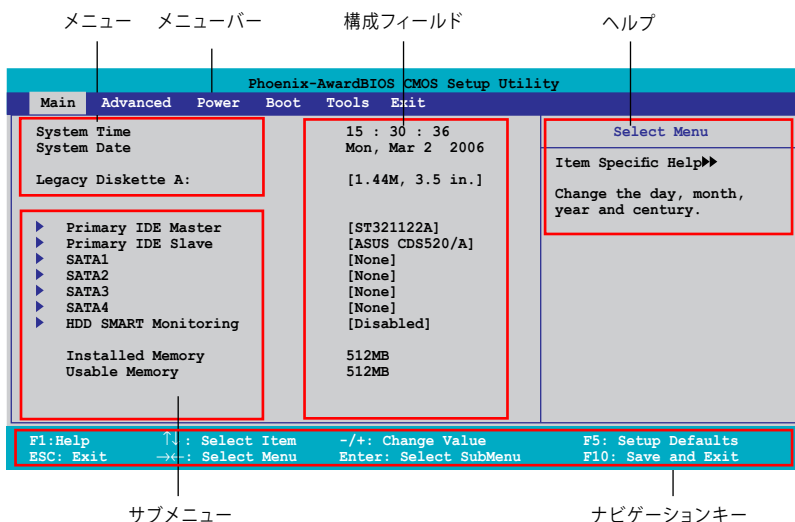


3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「**Open**」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



5.2 BIOS 設定プログラム

5.2.1 BIOS メニュー画面



5.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Tools	特別な機能の設定オプション用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。



- 掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS は ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

5.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューのアイテムを選択し、設定を変更します。

ナビゲーションキー	機能
<F1>	ヘルプ画面を表示
<F5>	セットアップ初期設定値をロード
<Esc>	BIOS セットアップを終了またはサブメニューからメインメニューに戻る
左右矢印キー	左右に移動して項目を選択
上下矢印キー	フィールド内のハイライト表示を上下に移動
Page Down /<->	ハイライト表示された項目の値を変更
Page Up /<+>	ハイライト表示された項目の値を変更
<Enter>	ハイライト表示させた項目を選択決定
<F10>	変更を保存して退出

5.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。

5.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

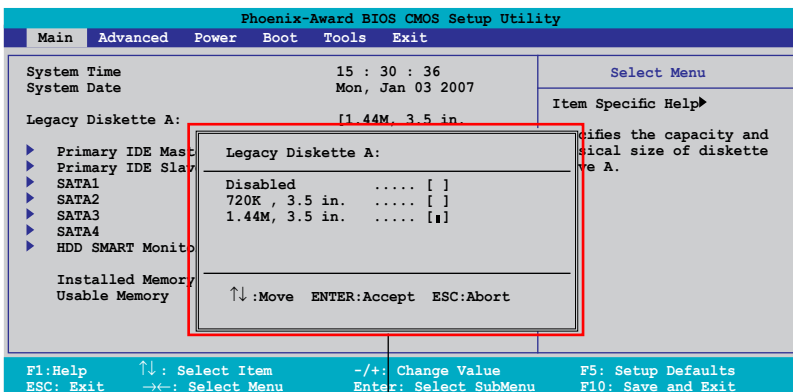
5.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定変更可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更ができない項目は、選択することができません。

各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「5.2.7 ポップアップウィンドウ」をご覧ください。

5.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。



ポップアップウィンドウ

5.2.8 ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

5.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「5.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Main	Advanced	Power Boot Tools Exit
System Time	15 : 30 : 36	Select Menu
System Date	Mon, Mar 2 2006	Item Specific Help▶▶
Legacy Diskette A:	[1.44M, 3.5 in.]	Change the day, month, year and century.
▶ Primary IDE Master	[ST321122A]	
▶ Primary IDE Slave	[ASUS CDS520/A]	
▶ SATA1	[None]	
▶ SATA2	[None]	
▶ SATA3	[None]	
▶ SATA4	[None]	
▶ HDD SMART Monitoring	[Disabled]	
Installed Memory	512MB	
Usable Memory	512MB	
F1: Help	↑↓: Select Item	~/+: Change Value
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu
		F5: Setup Defaults
		F10: Save and Exit

5.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

5.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

5.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

設定オプション: [Disabled] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]

5.3.4 Primary IDE Master/Slave

BIOS は接続された IDE デバイスを自動的に検出します。「**Device**」を選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Main		
Primary IDE Master		Select Menu
Primary IDE Master	[Auto]	Item Specific Help ►►
Access Mode	[Auto]	Press [Enter] to select
Capacity	82 GB	
Cylinder	39420	
Head	16	
Sector	255	
PIO Mode	[Auto]	
UDMA Mode	[Auto]	
Transfer Mode	UDMA 6	
F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit		

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Sector、Transfer Modeの値を自動的に検出します。これらの項目の値をユーザーが変更することはできません。また、システムにIDEデバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

Primary IDE Master/Slave [Auto]

[Auto] を選択すると、IDE ハードディスクドライブが自動的に検出されます。自動的に検出されると、BIOS はサブメニュー内の他のフィールドに適切な値を自動的に入力します。ハードディスクドライブが前のシステムで既にフォーマットしてある場合は、違った値を表示することがあります。その場合は [Manual] に設定し、IDE ハードディスクドライブの値を手動で入力してください。ドライブを取り付けていない場合は、[None] を選択します。

設定オプション: [None] [Auto] [Manual]

Access Mode [Auto]

初期設定の [Auto] で、IDE ハードディスクドライブ を自動的に検出します。「**IDE Primary Master/Slave**」の項目を [Manual] に設定した場合は、この項目を [CHS] に設定します。

設定オプション: [CHS] [LBA] [Large] [Auto]



ハードディスクドライブ の設定を行う前にドライブの製造元から、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがハードディスクドライブの認識を誤る場合があります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示します。ユーザー設定できません。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示します。ユーザー設定できません。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示します。ユーザー設定できません。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示します。ユーザー設定できません。

PIO Mode [Auto]

IDE デバイス用の PIO モードを設定します。

設定オプション: [Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

UDMA Mode [Auto]

UDMA モードを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Transfer Mode

転送モードを表示します。ユーザー設定できません。



BIOSでIDEハードディスクドライブ情報を入力したら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切ったり新しいIDEハードディスクドライブをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDE ハードディスクドライブのパーティションの設定を必ず行ってください。

5.3.5 SATA 1-4

セットアップ中に BIOS は自動的に Serial ATA デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと SATA デバイスの情報が表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Main		
SATA 1		Select Menu
Extended IDE Drive	[Auto]	Item Specific Help ►► Selects the type of fixed disk connected to the system.
Access Mode	[Auto]	
Capacity	0 MB	
Cylinder	0	
Head	0	
Landing Zone	0	
Sector	0	
F1: Help ↑↓: Select Item ~/+ : Change Value F5: Setup Defaults		F10: Save and Exit
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu		

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Landing Zone、Sector の値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに SATA デバイスが接続されていない場合は「0」と表示されます。

Extended Drive [Auto]

システムに接続されたハードドライブのタイプを選択。

設定オプション:[None] [Auto]

Access Mode [Auto]

セクタを設定します。

設定オプション:[Large] [Auto]



ハードディスクドライブ の設定を行う前にドライブの製造元から、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがハードディスクドライブの認識を誤る場合があります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示します。ユーザー設定できません。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示します。ユーザー設定できません。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示します。ユーザー設定できません。

Landing Zone

トラックごとのランディングゾーンの数を表示します。ユーザー設定できません。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示します。ユーザー設定できません。



BIOSでIDEハードディスクドライブ情報を入力したら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切ったり新しいIDEハードディスクドライブをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDEハードディスクドライブのパーティションの設定を必ず行ってください。

5.3.6 HDD SMART Monitoring [Disabled]

ハードディスクのSMART (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology) 機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.3.7 Installed Memory [xxx MB]

メモリの容量を表示します。

5.3.8 Usable Memory [XXX MB]

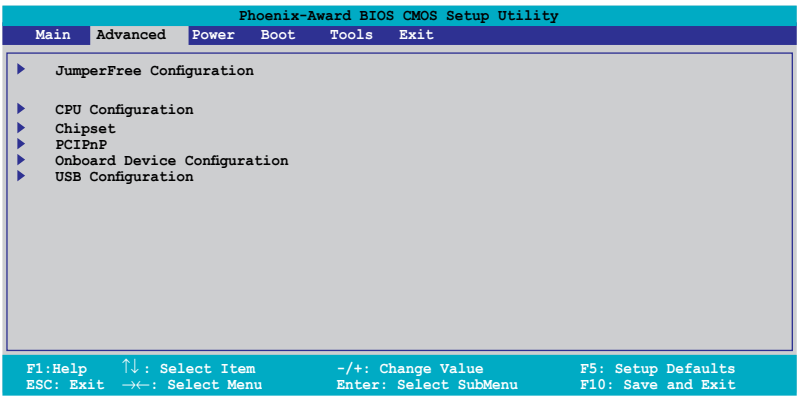
使用可能なメモリサイズを表示します。

5.4 拡張メニュー

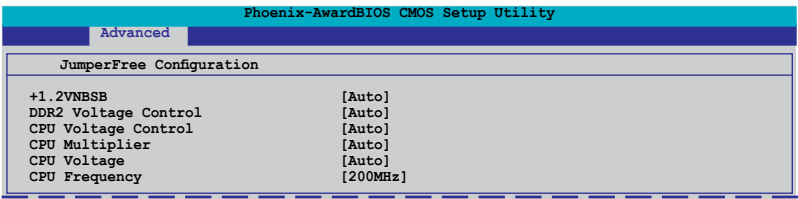
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



5.4.1 JumperFree Configuration



+1.2VNBSB [Auto]

+1.2VNBSB 電圧を設定します。
設定オプション: [Auto] [+1.20V] [+1.30V] [+1.40V] [+1.50V]

DDR2 Voltage Control [Auto]

DDR2 電圧を設定します。
設定オプション: [Auto] [+1.80V] [+1.90V] [+2.00V] [+2.10V]

CPU Voltage Control [Auto]

CPU 電圧を設定します。
設定オプション: [Auto] [100mV]

CPU Multiplier [Auto]

CPU 動作倍率を設定します。

設定オプション:[Auto] [5x] [6x] [7x] [8x] [9x]

CPU Voltage [Auto]

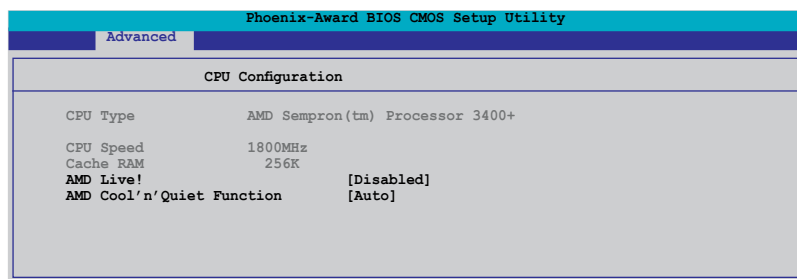
CPU の電圧を設定します。

設定オプション:[Auto] [1.400v] [1.375v] [1.350v] [1.325v] [1.300v]...[0.800v]

CPU Frequency [200MHz]

CPU 周波数を設定します。数値は数値キーで入力し、入力範囲は 200 ～ 400 です。

5.4.2 CPU 設定



AMD Live! [Disabled]

AMD Live! 機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

AMD Cool 'n' Quiet Function [Disabled]

AMD Cool 'n' Quiet 機能を設定します。

設定オプション:[Auto] [Disabled]

5.4.3 チップセット

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
Chipset	Select Menu
▶ DRAM Configuration	Item Specific Help ▶▶
▶ LDT & PCI Bus Control	
UMA Frame Buffer Size [64MB]	DRAM timing and control
Current UMA Size 64 MB	
X Surroundview Disabled	
Spread Spectrum [Autoz]	

DRAM Configuration

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
DRAM Configuration	Select Menu
Timing Mode [Auto]	Item Specific Help ▶▶▶
x Memory Clock Frequency Auto	Control DDR2 Voltage by software

Timing Mode [Auto]

設定オプション:[Auto] [Manual]



次の項目は「**Timing Mode**」の項目を [Manual] にすると、変更可能になります。

Memory Clock Frequency [Auto]

メモリ周波数を設定します。

設定オプション:[Auto] [DDR2 533] [DDR2 667] [DDR2 800]

LDT & PCI Bus Control

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
LDT & PCI Bus Control	Select Menu
LDT Bus Frequency [Auto]	Item Specific Help ▶▶▶

LDT Bus Frequency [Auto]

LDT バス周波数を設定します。

設定オプション:[Auto] [1GHz] [800MHz] [600MHz] [400MHz] [200MHz]

UMA Frame Buffer Size [64MB]

設定オプション:[32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

Surroundview [Disabled]

Surroundview 機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



この項目は PCI Express x16 スロットに ATI ビデオカードを取り付けると、ユーザー設定可能になります。

Spread Spectrum [Auto]

スペクトラム拡散機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

5.4.4 PCIPnP

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
PCIPnP		Select Menu
Plug & Play O/S	[No]	Item Specific Help ►►
Resources Controlled By	[Auto]	Select Yes if you are using a Plug and Play capable operating system. Select No if you need the BIOS to configure non-boot devices.
x IRQ Resources		
PCI Latency Timer (CLK)	[64]	
** PCI Express relative items **		
Maximum Payload Size	[4096]	

Plug & Play O/S [No]

[No] にすると、システム内の全てのデバイスはBIOSにより構成されます。[Yes] にし、Plug and Play OSをインストールしている場合は、起動に不要な Plug and Play デバイスは全てOSにより構成されます。

設定オプション:[No] [Yes]

Resources Controlled By [Auto]

[Auto]に設定すると、BIOS は自動的にブート/Plug & Play 互換でバイスを設定します。IRQ DMA とメモリベースアドレスを割り当てる場合は、[Manual] に設定してください。設定オプション:[Auto] [Manual]



「Resources Controlled By」の項目が [Auto] になっている場合、「IRQ Resources」の項目はグレーで表示され、設定変更できません。詳細はセクション「IRQ Resources」をご参照ください。

IRQ Resources

「IRQ Resources」は「Resources Controlled By」を [Manual] に設定すると設定可能になります。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
IRQ Resources		Select Menu
IRQ-3 assigned to	[PCI Device]	Item Specific Help ►►
IRQ-4 assigned to	[PCI Device]	
IRQ-5 assigned to	[PCI Device]	Legacy ISA for devices
IRQ-7 assigned to	[PCI Device]	compliant with the
IRQ-10 assigned to	[PCI Device]	original PC AT bus
IRQ-11 assigned to	[PCI Device]	specification, PCI/ISA PnP
IRQ-14 assigned to	[PCI Device]	for devices compliant with
IRQ-15 assigned to	[PCI Device]	

IRQ Resources

[PCI Device] に設定すると、特定の IRQ が PCI/PnP デバイスを自由に使用します。

[Reserved] に設定すると、IRQ はレガシー ISA デバイス専用になります。

設定オプション:[PCI Device] [Reserved]

PCI Latent Timer (CLK) [64]

<+> と <-> キー使用して数値を設定します。設定可能範囲は 0 ～ 255 です。

Maximum Payload Size [4096]

PCI Express デバイスの最大 TLP ペイロードサイズを設定します。単位は「byte」です。

設定オプション:[128] [256] [512] [1024] [2048] [4096]

5.4.5 オンボードデバイス設定構成

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
Onboard Device Configuration		Select Menu
► South OnChip IDE Device		Item Specific Help ►►
► South OnChip PCI Device		
Front Panel Type	[HD Audio]	
Primary Display Adapter	[PCIEx]	
Onboard LAN	[Enabled]	
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]	
Parallel Port Address	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[EPP]	
x ECP Mode Use DMA	3	
F1:Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults		F10: Save and Exit
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu		

South OnChip IDE Device

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
South OnChip IDE Device		Select Menu
IDE DMA transfer access	[Enabled]	Item Specific Help ►►
OnChip IDE Channel0	[Enabled]	
IDE Prefetch Mode	[Disabled]	

IDE DMA transfer access [Enabled]
IDE DMA transfer access 機能を設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]
OnChip IDE Channel 0 [Enabled]
オンチップ IDE Channel 0 コントローラを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]
IDE Prefetch Mode [Disabled]
IDE PIO 書き込みプリフェッチモードを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

South OnChip PCI Device

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
South OnChip PCI Device		Select Menu
Onboard SATA Controller	[Enabled]	Item Specific Help ►►
Onboard SATA Type	[RAID Controller]	

Onboard SATA Controller [Enabled]
オンボード Serial ATA コントローラを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]
Onboard SATA Type [IDE Controller]
オンボード Serial ATA のタイプを設定します。
設定オプション:[IDE Controller] [RAID Controller] [AHCI Controller]

Front Panel Type [HD Audio]

フロントパネルのコネクタ (AAFP) モードをレガシーAC'97または HD オーディオに設定します (フロントパネルオーディオモジュールがサポートするオーディオ標準で異なります)。
設定オプション:[AC97] [HD Audio]

Primary Display Adapter [PCIEx]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックコントローラを選択します。
設定オプション:[PCI Slot] [OnChipVGA] [PCIEx]

Onboard LAN [Enabled]

オンボード LAN デバイスのサポートを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボード LAN ブート ROMを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを設定します。
設定オプション:[Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3] [Auto]

Parallel Port Address [378/IRQ7]

Parallel Port アドレスを設定します。
設定オプション:[Disabled] [378/IRQ7] [278/IRQ5] [3BC/IRQ7]

Parallel Port Mode [EPP]

Parallel モードを設定します。
設定オプション:[Normal] [EPP] [ECP] [Bi-Directional]



「ECP Mode Use DMA」の項目は「Parallel Port Mode」の項目を [ECP] または [Bi-Directional] に設定するとユーザー設定可能になります。

ECP Mode Use DMA [3]

ECP Mode を設定します。
設定オプション:[1] [3]

5.4.6 USB 設定

USB関連機能の変更をすることができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
USB Configuration		Select Menu
USB Controller	[Enabled]	Item Specific Help ►►
USB EHCI Controller	[Enabled]	
USB Legacy support	[Enabled]	

USB Controller [Enabled]

USB コントローラを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

USB EHCI Controller [Enabled]

オンチップ USB コントローラを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

USB Legacy Support [Enabled]

レガシーOS環境での USB デバイスのサポートを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Main	Advanced	Power	Boot Tools Exit
ACPI Suspend Type [S1&S3]		Select Menu	
ACPI APIC support [Enabled]		Item Specific Help	
APM Configuration		Select the ACPI state used for System Suspend.	
HardWare Monitor			
F1:Help	↑↓: Select Item	~/+: Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

5.5.1 ACPI Suspend Type [S1&S3]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。
設定オプション:[S1 (POS)] [S3(STR)] [S1&S3]

5.5.2 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかの切り替を行います。[Enabled]に設定すると、ACPI 設定内のRSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.5.3 APM の設定

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Power			
APM Configuration		Select Menu	
Power On By External Modems [Disabled]		Item Specific Help	
Restore on AC Power Loss [Power-Off]			
PWR Button < 4 secs [Instant-Off]			
Power Up On PCI/PCIE Devices [Disabled]			
HPET support [Enabled]			
Power Up By PS/2 Mouse [Disabled]			
Power Up By PS/2 Keyboard [Disabled]			
Power On by RTC Alarm [Disabled]			
x Date (of Month) Alarm 0			
x Alarm Time (hh:mm) 0 : 0 : 0			
F1:Help	↑↓: Select Item	~/+: Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

Power On By External Modem [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Restore on AC Power Loss [Power Off]

停電などで電力が切断された場合の、電源復旧時の起動モードを設定します。

設定オプション:[Power Off] [Power On]

PWR Button < 4 secs [Instant-Off]

4 秒以上電源ボタンを押した後のイベントを設定します。

設定オプション:[Suspend] [Instant-Off]

Power Up On PCI/PCIE Devices [Disabled]

PCI/PCIE デバイスと NV オンボード LAN を使用して S5 状態から PME ウェークアップする機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

HPET Support [Enabled]

設定オプション:[Enabled] [Disabled]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PS/2 マウスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

PS/2 キーボードで電源オンにする機能を無効にできます。また、キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション:[Disabled] [Space Bar] [Ctrl-ESC] [Power Key]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを作成する RTC を設定します。この項目を [Enabled] に設定すると、アラームの日時がユーザー設定可能になります。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Date of Month Alarm [xx]

アラームの日付けを設定します。この項目をハイライト表示させ <Enter> を押して Date of Month Alarm のポップアップメニューを表示させ設定を行います。
設定オプション:[Min=0] [Max=31]

Alarm Time (hh:mm) [xx:xx:xx]

アラーム時間の設定

1. この項目をハイライト表示させ <Enter> を押して時間(時)を設定します。
2. 値を入力(最小=0、最大=23)し<Enter> を押します。
3. <TAB> を押して minute のフィールドに移動し <Enter> を押します。
4. 時間(分)の値を入力(最小=0、最大=59)し、<Enter> を押します。
5. <TAB> を押して seconds のフィールドに移動し <Enter> を押します。
6. 時間(秒)の値を入力(最小=0、最大=59)し、<Enter> を押します。

5.5.4 ハードウェアモニタ

BIOSで自動的に検出されたハードウェアモニタの値を表示します。また、CPU Q-Fan に関連する項目を変更します。<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Power		
Hardware Monitor		Select Menu
Q-Fan Controller	[Enabled]	Item Specific Help ► Press [Enter] to enable or disable
CPU Fan Type	[DC]	
Vcore Voltage	[1.56V]	
3.3V Voltage	[3.18V]	
5V Voltage	[5.05V]	
12V Voltage	[11.58V]	
CPU Temperature	48°C	
MB Temperature	41°C	
CPU FAN Speed	3068 RPM	
CHA FAN Speed	0 RPM	
PWR FAN Speed	0 RPM	
CPU Fan Speed warning	[800 RPM]	
HPET Support	[Enabled]	

Q-Fan Controller [Disabled]

Q-Fan コントローラを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

CPU Fan Type [DC]

CPU ファンのタイプを設定します。
設定オプション:[DC] [PWM]

Vcore Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

オンボードハードウェアモニタはオンボード電圧レギュレータを通じ、自動的に電圧出力を検出して表示します。
設定オプション:[xxx] [Ignored]

CPU Temperature, MB Temperature

オンボードハードウェアモニタは マザーボードと CPU 温度を自動的に検出して表示します。ユーザー設定できません。

CPU Fan Speed [xxxxRPM]

CHA_FAN Speed [xxxxRPM]

PWR_FAN Speed [xxxxRPM]

CPU、ケース、電源、サウスブリッジチップのファン速度を自動的に検出して 回転数/分 (RPM)の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには 0 と表示されます。これらの項目はユーザー設定できません。

CPU Fan Speed warning [800 RPM]

CPU ファン速度の閾値を設定します。設定した閾値より回転数が下がると警告メッセージが表示されます。[Disabled] に設定すると、ファンを取り付けていない場合や、ファンに不具合が生じた場合も、警告メッセージが表示されなくなります。
設定オプション:[Disabled] [800RPM] [1200RPM] [1600RPM]

5.6 起動メニュー

システムを起動する際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility					
Main	Advanced	Power	Boot	Tools	Exit
▶ Boot Device Priority ▶ Removable Drives ▶ Hard Disk Drives ▶ Boot Settings Configuration ▶ Security				Select Menu	
				Item Specific Help	
				Press [Enter] to Set.	
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value		F5: Setup Defaults	
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu		F10: Save and Exit	

5.6.1 ブートデバイスの優先順位

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Power			
Boot Device Priority		Select Menu	
1st Boot Device	[Removable]	Item Specific Help ▶▶	
2nd Boot Device	[Hard Disk]	Select Your Boot	
3rd Boot Device	[CDROM]	Device Priority	

1st ~ 4th Boot Device [Removable]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。
設定オプション:[Removable] [Hard Disk] [CDROM] [Disabled]

5.6.2 Removable Drives

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Boot			
Removable Drives		Select Menu	
1. Floppy Disks		Item Specific Help ▶▶	

1. Floppy Disks

システムに取り付けたリムーバブルドライブを割り当てます。

5.6.3 Hard Disk Drives

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Boot	
Hard Disk Drives	Select Menu
1. SCSI-0: XXXXXXXXX	Item Specific Help ►►

1. SATA

システムに取り付けたハードディスクドライブを割り当てます。

5.6.4 起動設定

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility	
Boot	
Boot Settings Configuration	Select Menu
Case Open Warning [Enabled]	Item Specific Help ►► Press [Enter] to enable or disable.
Quick Boot [Enabled]	
Boot Up Floppy Seek [Disabled]	
Bootup Num-Lock [On]	
Typematic Rate Setting [Disabled]	
x Typematic Rate (Chars/Sec) 6	
x Typematic Delay (Msec) 250	
OS Select For DRAM > 64MB [Non-OS2]	
Full Screen LOGO [Enabled]	
Halt On [All, But keyboard]	
F1:Help ↑↓: Select Item ~/+: Change Value F5: Setup Defaults	F10: Save and Exit
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu	

Case Open Warning [Enabled]

ケース開閉検出機能を設定します。「Enabled」に設定すると、ケースを開けたときに警告メッセージが表示されます。なお、本システムにはケース開閉検出センサーが付属していませんので、初期設定値のままご使用ください。この機能を利用する場合は、センサーを別途購入する必要があります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Quick Boot [Enabled]

「Enabled」に設定すると、起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムを短時間で起動します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Boot Up Floppy Seek [Disabled]

起動時のフロッピーディスクシークを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。
設定オプション:[Off] [On]

Typematic Rate Setting [Disabled]

キーリピートを設定します。この項目を [Enabled] に設定すると Typematic Rate (Chars/Sec) と Typematic Delay (Msec)を設定することができます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



「**Typematic Rate (Chars/Sec)**」と「**Typematic Delay (Msec)**」は、「**Typematic Rate Setting**」を [Enabled] に設定した場合のみ ユーザー設定可能になります。

Typematic Rate (Chars/Sec) [6]

1 秒あたりの入力文字数を設定します。

設定オプション:[6] [8] [10] [12] [15] [20] [24] [30]

Typematic Delay (Msec) [250]

2回目の入力として認識するまでの遅延時間を設定します。

設定オプション:[250] [500] [750] [1000]

OS Select for DRAM > 64MB [Non-OS2]

64 MB より大きい RAM で OS/2 を起動する場合は、この項目を [OS2] に設定してください。

設定オプション:[Non-OS2] [OS2]

Full Screen LOGO [Enabled]

Full Screen LOGO を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「**Full Screen LOGO**」の項目を [Enabled] に設定してください。

Halt On [All, But Keyboard]

エラーの報告タイプを設定します。

設定オプション:[All Errors] [No Errors] [All, But Keyboard] [All, But Diskette] [All, But Disk/Key]

5.6.5 セキュリティ

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Security		Select Menu
Supervisor Password	Clear	Item Specific Help ►►
User Password	Clear	
Password Check	[Setup]	

Supervisor Password User Password

パスワードを設定する

1. 項目を選択し<Enter>を押します。
2. 8文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力し<Enter>を押します。パスワードのフィールドが Set に変更されます。

パスワードをクリアする

1. パスワードフィールドを選択し<Enter>を2度押すと、下のメッセージが表示されます。



2. 任意のキーを押すと、パスワードフィールドの設定が「**Clear**」に変わります。

パスワードに関する注：

Supervisor Password は、認可のないアクセスを防ぐためにBIOS セットアッププログラムに入る際に要求するパスワードです。User Password は、認可のない使用を防ぐために、システムを起動する際に要求するパスワードです。

パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、CMOS Real Time Clock (RTC) RAM を削除することで、パスワードをクリアすることができます。パスワード情報を含む RAM データはオンボードボタンセルバッテリーで動作しています。CMOS RAM を消去する場合はページ4-3 の「**4.3 ジャンパ**」をご覧ください。

Password Check

この項目を[Setup] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[System] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション：[Setup] [System]

5.7 ツールメニュー

スペシャル機能のオプションを設定します。項目を選択し<Enter>を押してサブメニューを表示させます。

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
Main	Advanced	Power	Boot Tools Exit
▶ ASUS Music Alarm			Select Menu
▶ ASUS O.C. Profile			Item Specific Help ▶
▶ EZ Flash 2			Press [Enter] to Set.
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

5.7.1 ASUS Music Alarm

Phoenix-Award BIOS CMOS Setup Utility			
		Tools	
ASUS Music Alarm		Select Menu	
ASUS Music Alarm		[Disabled]	
x Alarm Date: Sunday	Enabled	Item Specific Help▶▶	
x Monday	Enabled	Press [Enter] to select.	
x Tuesday	Enabled		
x Wednesday	Enabled		
x Thursday	Enabled		
x Friday	Enabled		
x Saturday	Enabled		
x Alarm Time (hh:mm)	0 : 0		
x Audio CD Drive	Primary IDE Master		
x Detect CD	Enter		
x Starting Track	N/A		
x Repeat Track	Disabled		
x Length	10 Mins		
x Volume	16		
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

ASUS Music Alarm [Disabled]

ASUS Music Alarm 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



以下の関連項目は「ASUS Music Alarm」を [Enabled] に設定するとユーザー設定可能になります。

Alarm Date: Sunday/Monday/Tuesday/Wednesday/Thursday/Friday/ Saturday [Enabled]

特定した日時のアラーム設定を実行するかを選択します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Alarm Date: Sunday/Monday/Tuesday/Wednesday/Thursday/Friday/ Saturday [Enabled]

特定した日時のアラーム設定を実行するかを選択します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Alarm Time (hh:mm) 0 : 0

アラーム時間を設定します。<Tab> を押してフィールドを選択し、<+> <-> を使って値を変更してください。

Audio CD Drive [Primary IDE Master]

アラーム用音楽を再生する光学記憶装置の接続を設定します。

設定オプション:[Primary IDE Master] [Primary IDE Slave]

Detect CD [Enter]

<Enter> を押して CD のトラックナンバーを検索します。

Starting Track

アラーム用音楽を再生するトラックを選択します。

Repeat Track [Disabled]

トラックをリピートする機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Single] [All]

Length [10 Mins]

アラームの再生時間を設定します。

設定オプション:[10 Mins] [20 Mins] [30 Mins] [1 Hour]

Volume [16]

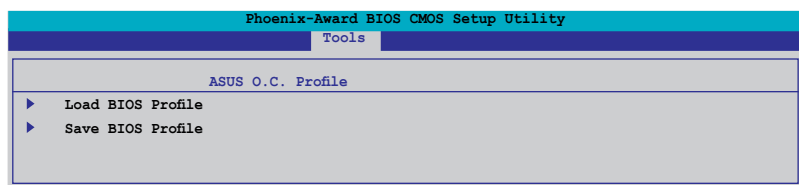
アラームの音量を設定します。

設定オプション:[01] ~ [32]

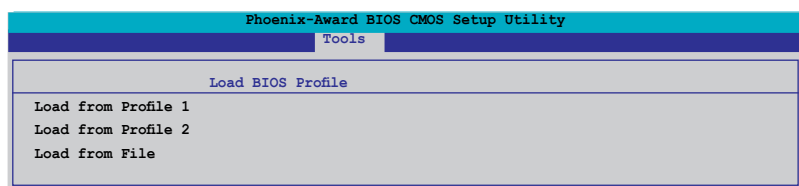


- サウスブリッジの IDE ATAPI デバイスのみがこの機能をサポートしています。
- この機能を利用するには、スタンバイ電源が必要です。電源コードは接続した状態にしておいてください。
- ASUS Music Alarm がサポートしているのはオーディオ CD のみです。

5.7.2 ASUS O.C. Profile



Load BIOS Profile



Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存したBIOS 設定をロードすることができます。<Enter> を押してファイルをロードしてください。

Load from File

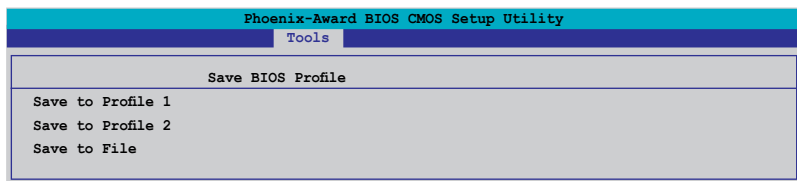
ハードディスク/フロッピーディスク/USBフラッシュメモリに FAT32/16/12 フォーマットで保存したBIOS ファイルをロードすることができます。手順は以下の通りです。

1. “xxx.CMO” ファイルの入った記憶装置をセットします。
2. システムをオンにします。
3. BIOS セットアップのTools メニューで「Load from File」を選択します。<Enter> を押すとセットアップ画面が表示されます。
4. <Tab> を使ってドライブを移動し “xxx.CMO” ファイルを選択します。<Enter> を押してファイルをロードします。
5. ロードが完了するとポップアップメッセージが表示されます。



- 同じメモリ/CPU 設定/BIOS バージョンの BIOS ファイルのみへのアップデートを推奨します。
- 「xxx.CMO」ファイルのみロード可能です。

Save BIOS Profile



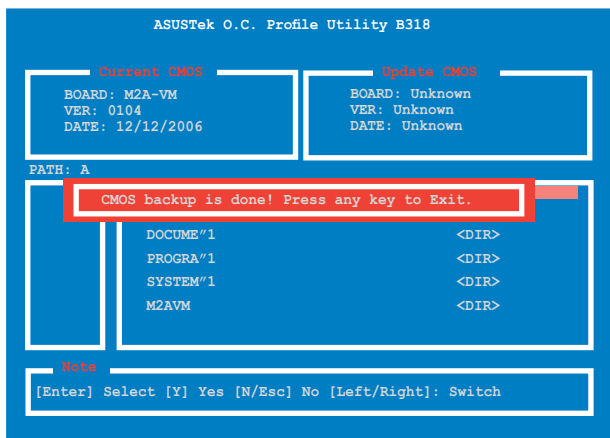
Save to Profile 1/2

BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。〈Enter〉を押すとファイルが保存されます。

Save to File

FAT32/16/12 フォーマットの ハードディスク/フロッピーディスク/USB フラッシュディスクに BIOS ファイルを保存します。手順は以下の通りです。

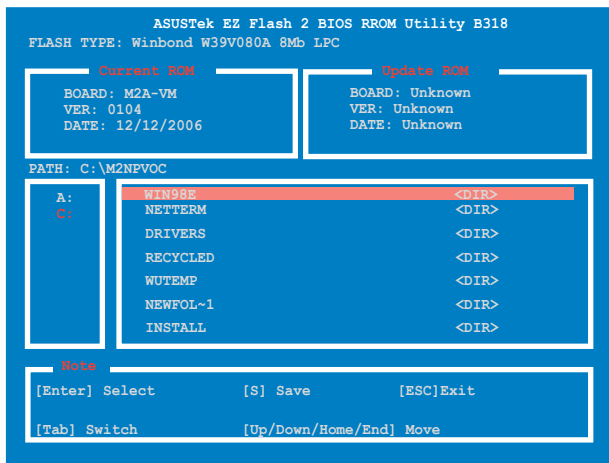
1. 十分な空き容量のある記憶装置をセットします。
2. システムをオンにします。
3. BIOS セットアップの Tool メニューで「Save to File」を選択し〈Enter〉を押すとセットアップ画面が表示されます。
4. 〈Tab〉を使ってドライブを移動します。ホットキーの 〈S〉を押してファイルを保存します。
5. ファイル名を入力し、〈Enter〉を押します。
6. 保存が終了するとポップアップメッセージが表示されます。



BIOS ファイルは "xxx.CMO" の形で保存されます。

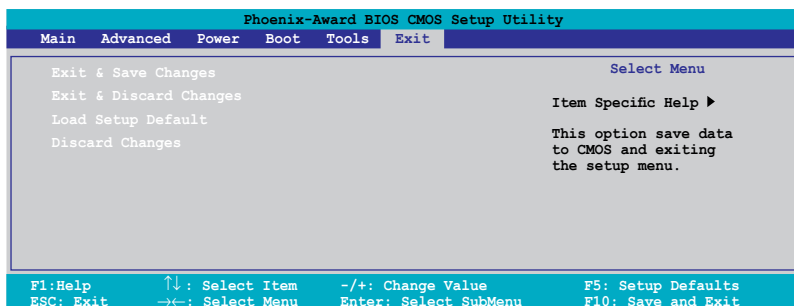
5.7.3 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [Yes] または [No] を選択し <Enter> を押して選択を決定します。ページ 5-3、セクション 5.1.2 をご参照ください。



5.8 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。





<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。「Exit」メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit」メニューからこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保持します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Load Setup Default

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復元します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。